

昭和9年(1934)設立

財務省許可 社団法人 昭和經濟

第59巻6号 20年6

# 昭和經濟

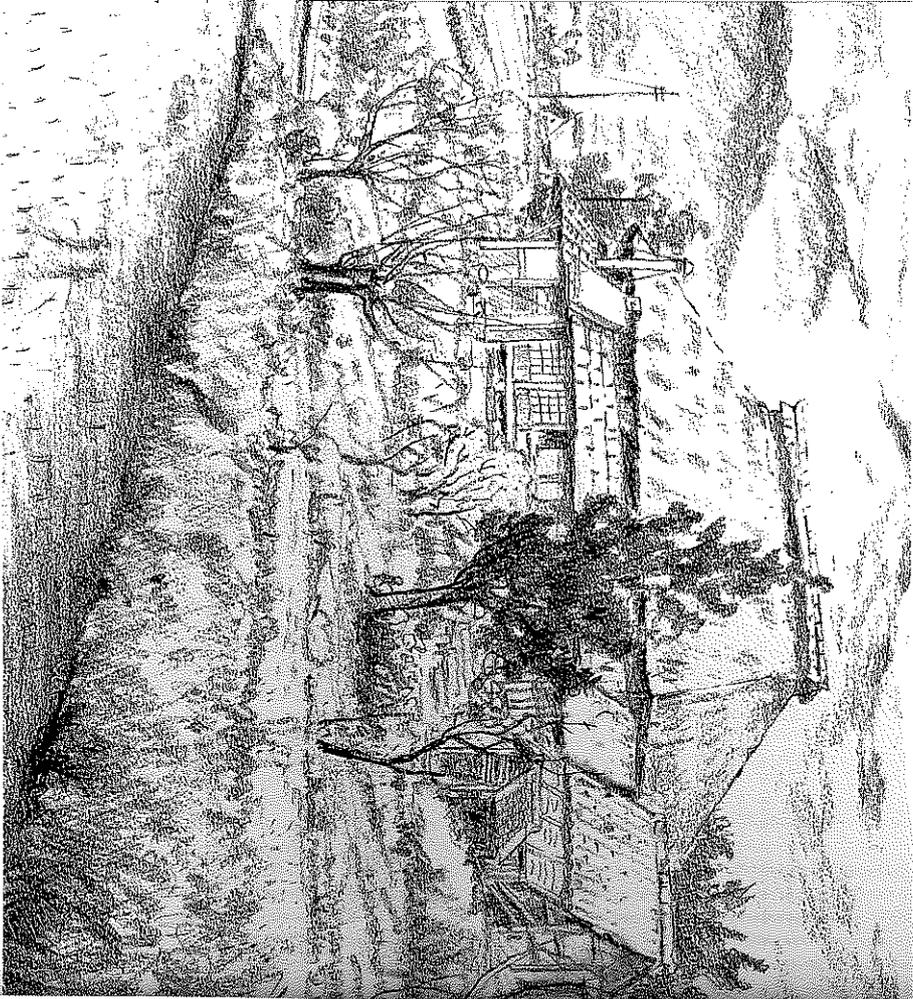
Manager Association of Japan

国会図書館永久保存

昭和25年6月24日 第3種郵便物認可  
平成20年5月26日印刷 毎月1回1  
昭和25年10月19日 平成20年6月2  
日本国有放送特別播承認継続誌

大転換期の発想法  
資源経済学進化で対処を

三原 淳雄  
佐藤 隆三



信州大町風

昭和經濟 20—6月号

昭和25年6月24日 第3種郵便物認可 (毎月1回1日発行)  
昭和25年10月19日 日本国有放送特別播承認継続誌第1197号

**Showa Economic Study Association**  
企業家・経営者団体

財務省 本省許可

社団法人 **昭和經濟会**

事務局 〒104-0028 東京都中央区八重洲2-11-2

TEL. 6820-6000 • 3271-8846 FAX 3271-3104

<http://www.showa-ec.or.jp/>

e-mail [showakeizai@crux.ocn.ne.jp](mailto:showakeizai@crux.ocn.ne.jp)



## 巻頭言

黒いダイヤ、石炭

佐々木誠吾

黒いダイヤともてはやされた石炭産業が、日本から姿を消してから半世紀が経ちました。原油が石炭に取って替った画期的時期が、過去の遺物として記憶に新しいところですが、その原油価格の高騰で、今、石炭産業が見直されてきました。しかし今日、世界をとりまく環境の悪化の張本人であるCO<sub>2</sub>、二酸化炭素の排出抑制で世界が躍起になっている状況で、直ちに石炭を代替エネルギーとして復帰させる機運には相当な抵抗があります。視点を変えて無尽蔵にある石炭の有効な活用をもっと探求していく必要があります。石炭を見直して、苦勞ダイヤとして資源的に大きく浮上させることが現代に化せられた大きな使命の一つではないでしょうか。エネルギーとしての資源的価値を高め多面的活用は魅力に富んでいます。日本の優

して、ハルピンの石炭火力発電所で応用します。同発電所近くにある大慶油田にこれを運び、油田に注入、貯留してそのメリットを実現する計画です。

大慶油田にある油質は、もともと粘度が高いため取り出しに困難な状況にあります。二酸化炭素の特性を利用して、この原油の粘度を軟化させることが出来ます。油田にこの二酸化炭素を注入、混入することによって粘度が低下し、容易に採油しやすい状況を作り出し、それを効果的に活用する方法です。

ところで石油も化石燃料であることに変わりはありません。要は二酸化炭素の地下の貯留技術がいかに拡大可能かが問題です。それだけでなく、二酸化炭素自体の有効活用の、具体的方策の研究と成果が依然として課題になります。同時に、この厄介者の二酸化炭素そのものを、何らかの方法で友好な素質に変えられないものか、研究、開発する努力がなされてしかるべ

れた技術と研究成果が発揮されて、今又、石炭の存在価値が大きく浮上してきました。当面、エネルギーとしての石炭をもっと見直すべきであります。早晩眠っている日本のマーケットも、その動向に注目してくるでしょう。

エネルギーに関しては少くとも石炭の燃焼から出る膨大な二酸化炭素の処理方法に、更に革命的な道筋と、経済合理性が確立されない限り、その活用と効果は最大限に發揮されません。石炭からとる二酸化炭素を地中深く注入する方法が考察されています。例えば中国を舞台に今、火力発電から排出される二酸化炭素を油田に注入、封じこめて原油を取り出し易くする画期的な事業が行われようとしています。

これは大量の二酸化炭素を地下に貯留する新技術で、これによって大気の中に排出される量を事実上ゼロにすることが可能とされています。これ自体は事業としては利益が出ませんが、報道によると、舞台を中国の黒竜江省に移

きであります。石炭自体の有効活用の具体的方策の研究と瀬歌が、依然として期待されメス。石勇に変わって石炭の存在価値が黒いダイヤとして浮上してくるか否か、ひとえに人知にかかわってきました。

ここで重要なのは原油の価格高騰を喰い止めるための、石炭の活用と復活が重要であり、短期的には中国での実験が成功すれば二酸化炭素の処理とエネルギーの絶対量を一時的に確保する一応の手立ての見込みが立ちました。いずれにしても石油にしろ、石炭にしろ、これを単に動力、熱エネルギーの資源として燃やしてしまうだけでは余りにも知恵がな過ぎます。原油をもっと広範囲且つ有益に使用する資源として認識し、単なるエネルギーとしての認識から、考え方を改める必要があります。

日本には経済的な採算から、止む得ず閉山となった良質の石炭資源が豊富にあります。短期的には、原油の代替資源として競争力を高めて

有利の状況と話しました。そこで世界的な時流に乗っていくには、依然と指摘される東京市場の閉塞性、閉鎖性です。敢えて「日本の後進性」というべきでしょうか。後進性といえは問題の焦点が、その透明度を増してくるかもしれせん。日本を取り巻く経済の後進性が、今の世界の動向と水準から、容易に理解されてくるでしょう。東京市場の世界に向けた「開放性」の法整備」と、取引の各種の「規制の改革、撤廃」といった、解決すべき重要な課題があります。時代にそぐわず放置されたままに旧態然としており、それらから外国資本の日本への円滑、透明な流入を妨げ、大きな障壁となっています。日本の株式市場が機能的に、世界に通じたマーケットでなければ、競争の激しい世界の資金は呼び込めません。依然として旧態然の觀念に縛られた東京の市場、無意味で百害あって一利なしの規制や規則があつて、東京市場の魅力は乏しい状況です。ここにも発想の転換と抜本的

世界的に大底？を打ったか。

きました。効率よい新たな発掘と活用が目下の課題であります。単にエネルギーとしてはなく、他面的且つ画期的な活用方法を案出するべく、更に研究する余地があります。日本の技術と学術的知識を以つて、二酸化炭素の除去にはかなり目を奪われるだけでなく、逆に他の応用を広く研究、開発、考案し世界に先駆けて石炭の有効活用に官民揚げて努力すべきであります。日本の石炭掘削技術は世界最高水準を言っており、これを無にしてはなりません。原油の狂的高騰を機に、世界経済は食料を初めとして、物価高騰の危機を招きかねません。この小消費型の経済の枠組みの改善を行い、エネルギー消費型の経済の枠組みの改善を行い、エネルギーの責務であります。もとよりエネルギーの大量の責務であります。これを回避して経済を判定させることは、我々めとして、物価高騰の危機を招きかねません。この小消費型の経済の枠組みの改善を行い、エネルギー消費型の経済の枠組みの改善を行い、エネルギーの責務であります。もとよりエネルギーの大量の責務であります。これを回避して経済を判定させることは、我々めとして、物価高騰の危機を招きかねません。

四月五日

サブプライム問題は世界に深刻な打撃を与えていますが、それがもたらす金融資本市場への影響は最終的局面に入ったとの認識を、私は二ヶ月前に予告しました。株式市場はもとより激しい上下の振幅と繰り返して急落してきましたが、先見性を發揮して最悪の事態は可成り織り込んできていると判断しました。そのことを勇気を以つて発言し、各位にお伝えしました。ちなみに打撃を受けた日本株式に於いても、金融株は極めて顕著であります。例えば、みずほ銀行は平成十八年六月に付けた一〇二万円から急落し、今年三月十八日には三六万円の安値をつけました。私は「みずほ」の四五万円は売り込まれ過ぎと判断し、四十万前後は猛烈と買い方向を打ち出しましたが、皮肉にも暴落の痛手は深く、買い余力のない状態は各位とも如く、何とかがたき状況です。

先に行われた当会の講演親睦会でも小職は敢えて発言し、株は既に大底を打っており買い

改革が必要です。最近、マスコミや報道に携る職員、並びに証券会社々員に依るインサイダー取引が発覚し、逮捕者が出ました。するとそれを以つて直ちに規制強化に乗り出したります風潮があります。世界に逆行する規制をすべて編み出してゆく傾向にあります。一部の狼藉者、無法者を以つて、全体を規制しようとする狭隘な発想であります。時代の大きな潮流に逆行して改革、解放路線を封じ、官僚統制を敷いて、民活路線を封じ込めようとする妄想が直ぐに頭を持ち上げてくるのは慄懼に耐えません。

法曹界然り、日進月歩の経済産業界が然り、改革を叫び精銳をつとめるはずの最高責任者が、いざ斯界に入つてしまつと期待にそむき体制に押され、牙を抜かれて胴披の体たらくに變じてしまふことは口惜しき限りであります。

四月十五日

## 「時局論壇」

### 資源経済学進化で対処を

ニューヨーク大学名誉教授

東京大学客員教授

佐藤 隆三



過去と異なる「需要超過型」

米国のサブプライムローン（信用力の低い個人向け住宅融資）問題と原油価格の高騰を契機に、日米経済は先行きの不透明感が増している。特に実体経済に直結する原油価格の高騰は、石油関連産業だけでなく経済のすみずみにまで影響を及ぼしかねない。

原油価格が一時、一バレル一〇〇ドルを突破、世界には第三のエネルギーショックに突入した。そのほどの憂慮が広がっている。一九七〇—八〇年代の石油危機の折には、エネルギーショックは三十年に一度発生するといわれた。現在はまさにその三十年後である。だがいまの原油価格高騰は、これまでの危機とは性質を異にしている。過去のエネルギーショックは中東や石油輸出国機構（OPEC）など産油国による供給制限で発生した。今回の原油価格高騰は需要超過によるもので、いわば「需要超過型」のショック

ックである。中国やインド経済の急成長により、発展途上国からのエネルギー需要が激増している。加えて、衰えることのない先進国からの需要増加がエネルギー価格を押し上げている。さらに七〇年代には見られなかった現象は、シリアやイランが石油を投機対象として巨額のマネを投じていることだ。

一方、八〇年代初頭の一バレル約四〇ドルという原油価格は最近の実質価格水準に引き直せば約八〇ドルに相当し、その大ショックに当り耐えたのだから、現在の世界経済はより柔軟で、ショック吸収力を有し、過大な危惧を抱く必要はないとの主張もある。

本稿では、七〇年代から発展した有限枯渇資源の最適理論に触れながら、原油など天然資源の効率的な利用に関するこれまでの理論を俯瞰（ふかん）した上で、今後経済学が有効な処方せんを掲示する上で何が必要かを考えたい。

統計入手困難で分析の限界露呈

原油などエネルギー価格高騰の問題に対し、経済学では、枯渇する資源を異時点間でどう配分するのが最も効率的か、いかにすれば枯渇資源をどう他の生産要素と組み合わせると、生産ひいては所得がより高まるか（異時点間での一人あたり消費の極大化）という観点で解明を進めてきた。

この枯渇資源の経済理論はその源流をハロルド・ホテリングの分析（三年に求めることができよう。ダイスカウントキヤッシュフロー分析の考え方と企業の収益最大化を前提とした上で枯渇性資源の生産者資源保有国や資源採掘業者などの行動を分析したこの理論は、当時は鉱山などの有限資源の有効使用を分析した画期的なものとみなされたが、その後は大きな関心を集めることはなかった。

しかし、石油ショックを契機に枯渇資源に対

する危機感が高まり、ロバート・ソロ(MI I)、アピナッシュ・デイキット(プリンストン大)、ジョン・ハートウイック(加クインズ大)などの諸教授や筆者が枯渇資源に関する世代間のマクロ的最適配分の理論の構築を試みた。

その端緒といえるのが、七七年に「ハートウイック・ルール」を發表したハートウイックだ。簡単にいえば、枯渇資源の持ち主が受けとる報酬(原油採掘による利益)をそのまま資本設備の増加に投入すれば、資源が最も効率的に利用され、世代間の公平も達成できるというものだ。

ただ、ハートウイック・ルールでは、天然資源採掘の利益と資本投入(投資)の比率が常に一対一でなければならぬという条件のもとで分析がなされていた。いかえれば、例えば天然資源をハートウイック・ルールで想定するよりもめに投入した場合、異時点間での一人

的な成果を上げることができなかった。状況は現在もほとんど変わっていない。せいぜいえるのは前述のように、今回の原油高は過去のそれに比べて打撃は少ない、あるいは、その逆に中国やインドの需要増の影響は今後より深刻になるなどの叙述的説明に頼らざるを得ない。

石油の量に関する推計は、経済学以外の分野からもなされている。例えば、著名な地球物理学者、キング・ハバート博士は、現在生産されている原油の量から生産量の最大点(ピーク)を推定してベール型・正規分布曲線の全面積を埋蔵量と定義した。この最大点は「ハバート・ピーク」と呼ばれている。五六年に彼は米国の生産ピークは一九七〇年代と予測しこれが的中した。この手法によると、現在の世界バート・ピークは二〇一〇年で、いまの原油価格の高騰はこれを反映しているとの見方もある。

いずれにせよ、枯渇資源の経済理論は、原油の埋蔵量推定や採掘の経済性といったデータ

あたりの消費極大化は達成できないということになる。これに対し、アーチン・ワイツマン(Habert大)や筆者は、「価格で測った枯渇資源の総量と企業の総収入の比率をコンスタントにする(保存する)」という「経済保存則」にのっとれば、企業が長期的に利潤が極大化するだけでなく、異時点間の一人あたり消費極大化も同時に達成できると提唱した。

それではこうした理論的分析に照らして、現在の原油価格の高騰現象は、マクロ・ミクロ両面で正当化できるのか。その答えは一にも二にも実証分析に必要なデータの入手可能性にかかっている。だが残念ながら、枯渇資源である原油の埋蔵量さえ正確に把握するのは極めて難しい。まして産油国の原油採掘の報酬などは企業秘密として公開されていない。

七〇年代のエネルギシヨック時に何人かの経済学者がこれに関する科学的実証分析を試みた。結果的にはデータの壁に当たって学術

### 投機マネー規制理論構築も課題

の入手が困難であり、これを石油問題にあてはめるのには限界が出ているといわざるを得ない。

では、経済学は今後、この分野でどんな研究が期待されるのか。

第一の方向性は、ゲーム理論の応用だ。これまでの枯渇資源の理論は、いわば世界経済を一つの単一モデルとしてみる「一国モデル」的なアプローチだった。だが、OPEC加盟国などの産油国や石油メジャー、先進国や中国、インドなどとこのゲームのプレイヤーを類型化し、動学(微分)ゲーム理論的アプローチでこれらのプレイヤーの行動を分析し、そこから異時点間での一人あたりの消費の極大化の方向を探ることが考えられてもよいのではないかと思われる。

あたりの消費極大化は達成できないということになる。これに対し、アーチン・ワイツマン(Habert大)や筆者は、「価格で測った枯渇資源の総量と企業の総収入の比率をコンスタントにする(保存する)」という「経済保存則」にのっとれば、企業が長期的に利潤が極大化するだけでなく、異時点間の一人あたり消費極大化も同時に達成できると提唱した。

それではこうした理論的分析に照らして、現在の原油価格の高騰現象は、マクロ・ミクロ両面で正当化できるのか。その答えは一にも二にも実証分析に必要なデータの入手可能性にかかっている。だが残念ながら、枯渇資源である原油の埋蔵量さえ正確に把握するのは極めて難しい。まして産油国の原油採掘の報酬などは企業秘密として公開されていない。

七〇年代のエネルギシヨック時に何人かの経済学者がこれに関する科学的実証分析を試みた。結果的にはデータの壁に当たって学術

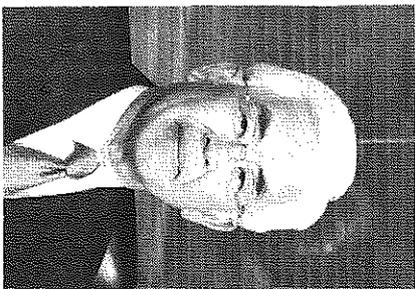
動学ゲームとは、複数のプレイヤーが刻々と変化する枯渇資源や消費などの水準を念頭に置きながら、個々がどう行動すれば利潤や効用を長期的に極大化できるかを分析する学問である。地球温暖化問題を発展途上国と先進国との間の動学ゲームとしてとらえ、各国が自らの利益を犠牲にすることなく相手の妥協を引き出そうとする研究も今後考えられよう。

第二の方向は、富の再分配に関する研究である。原油から得られる利益はいわばレント（非経済活動から得られる超過利潤）である。市場メカニズムでは解決できないこのレントを誰にどのように帰属させればよいのかは今後の課題である。

さらに、投機マネー規制の理論の構築も必要になってくると思われる。原油のような枯渇資源は、リンゴやミカンのような再生可能な商品ではなく、人類が所有する共同資産である。とすれば、何の規制もなしに投機が許される対象

## 原油ゲームと、世界経済の様相 学校経営と、日本の将来は

学校法人静岡理工科大学理事長  
元・三菱商事(株) 本部長  
サウダイ石油化学(株) 前・社長



佐々木 和男

ではないとみなすべきかもしれない。もちろん投資ファンドは反対するだろうが、「地球の利益」を考えれば、デイスクロージャ（開示）も租上（そじょう）に上つてこよう。そこでは国際公共財の理論の応用が期待される。

一時盛り上がりを見せた資源経済学がずっと低調だったのは、原油をはじめとする資源・エネルギー価格が長期低落傾向にあったからにほかならない。その意味では、現在は、再び資源経済学に脚光が当たる可能性を秘めていゝる。その中心は理論構築の深化というより、応用経済学的な観点での研究になるう。

（一橋大学、ジョンホプキンス大博士）

谷口八穂 谷口コーポレーションの谷口と申します。石油埋蔵量の件ですが、以前に私はプラント関係の設計をしておりますので、中近東あたりの情報を聞いておりまして、以前のオイルショックの時は、あと二十年ないと言われていたのです。従って私は、この商売をしてもこの先食べて行けないと思ひ、その後しばらくして辞めたのですが、今のお話でまだ四十何年かあると言うのですね。ですから、捜せば探すほど、どんどん出てくるのかなあ、と思つたりしています。多分、三菱さんには物凄いリモート・センサ、これは人工衛星に付けて地球を撮影していますが、NAS Aと組んでやっているようで、これは非常に精度が良くて、又、センサの使い方によっては地下も見られるようです。石油やガソリンは日本では殆どが税金なのです。それでは今の特例

〔質疑応答 つぎ〕



思い出したのですが、この富士屋ホテルで講演  
親睦会を開いた時です。あの時はドイツ証券の  
武者塚司氏をお招きした講演会でした。その前  
日にイラク戦争が勃発したのです。アメリカ  
軍はイラクに侵攻して行きました。その時に、  
本日の佐々木講師がたまたま見えていました。  
サウダイ石油化学工業の社長をしていました  
から、中東情勢については実践的評論家であり  
ますので、所見を伺ったのであります。講師は  
その時、イラク戦争は一週間で片が付いてしま  
うと述べたのであります。びっくりしましたね。  
余りにも大胆な予測をされたので驚きました。  
アメリカ軍の多国籍軍は破竹の勢いでイラク  
を攻めていつて勝敗は火を見るよりも明らか  
だと、しかも一週間で決着すると言われていま  
した。実際には一週間少しかかりましたが、予  
想は、ほぼ的中しました。双方の激戦の火ぶた  
には、天と地の開きがあったこと、技術的、物  
量的にも軍事力の差は歴然であったことは、テ

つていたと言ふことは、既に皆さんは良くお判  
りのことだと思います。しかし、当時は、そうい  
う見方をしていなかったわけ。一番の問題  
はイスラームの世界です。イスラームには、スンニ  
とシーア二つの宗派があり、スンニとシーア  
は根は同じなのですが、非常に仲が悪くて激し  
い対立関係にあります。イランはアラブではな  
くペルシヤなので、イランはアラブだと思  
っている人が沢山いますが、それは誤解なので  
す。アラブの世界から見ると、イランはペルシ  
ヤで、ペルシヤの世界から見ると、アラブは俺  
達ではないと言ふことなのですが。要はイラン  
はシーア派が絶対的勢力をもっていることで  
す。クエートとサウジアラビアは、スンニが絶  
対的勢力をもっています。アラビア半島ではア  
ラブの中で絶対的な勢力を持っているのはス  
ンニ派なのです。彼らから見るとシーア派は異  
端なのです。につき異端なのです。従ってな  
かなか相入れないのです。

テレビ新聞報道でご承知の通りでした。

その後の問題として提起されたのは、私の記  
憶では、講師は「イラクをぶち壊してフセイン  
を追放したのは戦術的には成功したとしても、  
その後のイラクのあとをどのように統治して、  
戦後の処理と復興を果していくかが重大な問  
題だ」と言ふことを指摘して述べていたことが、  
とても印象に残っています。イラクのその後の  
惨状は、現在に及んでご承知の通りです。国際  
情勢も絡んで、なかなか難しいところですが、  
イラクの問題は、アメリカの大統領選挙にもい  
ろいろと影響してくるでしょう。イラクの将来  
はどうなんでしょうか。

佐々木講師 六年前だと言ふのに大変記  
憶力のいいことで、私がお話したと思ひます。  
それは確か、私がイスラームの世界と言ふものを  
多少かいまみて、そこで仕事をしたと言ふ実体  
験からお話したことだと思ひます。

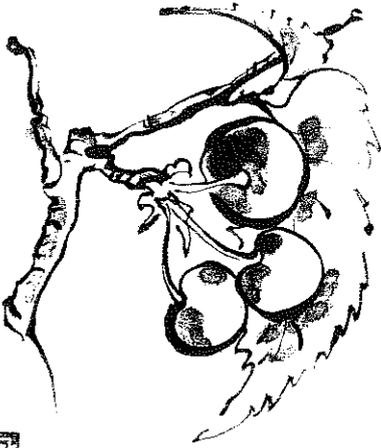
イラクはサダム・フセインが居たから治ま

では、イラクはどうであつたか。イラクは、  
スンニとシーアが共存していたのです。それで  
サダム・フセインは、シーア派を随分迫害して  
いたのです。彼はスンニの代表です。従つてイ  
ラクに対して、サウジアラビアは非常にシムバ  
シーを持つているのです。ですから、アメリカ  
がアラブを進攻することに對しては徹底的に  
反対したのです。一時期、非常に険悪な關係に  
なりましたが、残念ながらサウジアラビアとか  
中東の諸國は、イラクを除いて、軍事力が非常  
にお粗末です。従つてアメリカに手向うことが  
できないのです。イラク戦争は、そういう状況  
の中にあつたのです。

では、イラクはどうなのか。イラクのもう一  
つの悩みはイラクの北方にあるクルド、クルド  
民族なのです。これについてはトルコが非常に  
悩ましい状況にあります。このクルドとシー  
ア派を徹底的に抑え込んだのが、サダム・フセ  
インだつたのです。イラクという國は、独裁だ

なことを言うど誠に不謹慎ですが、もう一度  
 況にでもならない限り難しいのではないかと  
 思います。それは一度エジプトしたレベルと  
 言うものは、人間の本性として忘れ難いので  
 ね。それは産油国ばかりでなくて、全ての国が  
 そうだと思つのですが、失張り、今これだけ原  
 油高になつても、それをフルに使つている国々  
 は、それをいかに存続させていくかということ  
 に神経を使つているのですね。日本がバブルが  
 はじけたような、ああしたリセッションが世界  
 で起きないよう祈つておきますけど。

(つづく)



作品 関根常雄

から何とかなつたのです。そこをブッシュがい  
 スラムの世の中を知らずして民主主義だ、自由  
 主義だやから失敗するのです。全然相入れ  
 ない世界に、自分たちの思想と主義を持つてい  
 こうとするところに、ブッシュの傲慢があるの  
 です。ですから、今のような混迷化した社会に  
 なつてしまうのです。愚かなブッシュが大統領  
 の職にある限り、世の中は本当に良くはならな  
 いと思つますよ。(拍手と笑いが起こる)いや、  
 本当に。  
 アメリカの傲慢さが、この世の中を本当に悪  
 くしています。あのイスラムの世界が、仏教国  
 の日本がけしからんと云つて、日本をカンザン  
 やつたら、日本だつて怒るでしょうね。同じこ  
 とです。やつぱり、長年培つてきた宗教と言  
 うものを、片方の意見でそう簡単に終息でき  
 ような問題ではないのです。そうでなければ、  
 こんな二千年の歴史を世界が引きずつて来る  
 わけがありません。根底にあるのはみんな宗教

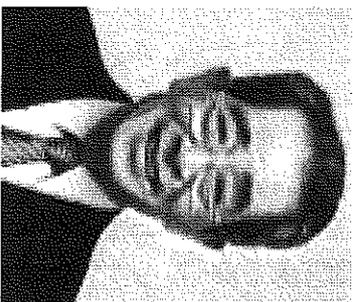
なのです。そこへ、ぼんぼん入つてゆくと云う  
 のは、人間の本性を知らないからなのです。だ  
 から、そこに気付かないブッシュは、駄目だと  
 いうことになつてしまうのです。  
 板橋則雄 税理士を致しております板橋  
 と申します。今日は普段なかなか何この出  
 来ないことも含めて、いろいろと勉強させて頂  
 き誠にありがとうございます。私の顧問先の  
 中小企業については、殆んどが今の原油価格の  
 上昇の結果、燃料費が上つて困つてるところ  
 です。そういう点で、お話のように、今は九〇  
 ドル台ですが、将来は五〇ドル台になるのでは  
 ないかと言つてますが、いつ頃まで現在の九  
 〇ドル台が続くことか、いつ頃になったら五〇  
 ドル台、六〇ドル台にまで落ち着いてくるのか  
 ということについて、顧問先から聞かれたりす  
 る場合にどうなのか、お教え頂ければありがた  
 いと思つますが。

佐々木講師

なかなか難しい問題で、こん

## 大転換期の発想法 変る世界・変れぬ日本

経済評論家  
株式評論家  
三原 淳雄



理事長  
これから昭和経済会の講演親  
睦会を開催させて頂きます。昨夜から思わぬ春  
の雨に襲われまして、皆さんの足を案じなが  
ら一日過して参りましたが、先程から風雨も止  
んできました。この先は安心しておられます。  
今日は、当代切つての経済評論家、三原淳雄  
先生にお越し頂きました。皆さんには、ご多忙  
のところ、ようこそおいで下さいました。日頃  
は多大なご協力を賜りまして、深く感謝申し上  
げます。昨今、世界を取り巻く経済情勢は誠に  
激しく、厳しいものがあります。ようやく回復  
かに見えた日本経済ですが、サブプライム問題  
で、予想だにできなかったサブプライムズだつた  
ような感じで、底が抜けんばかりに各界がびつ  
くり致している状況で、その影響も多大なもの  
があります。そこでいつも警鐘乱打して、日本  
の経済はこのままでいものかと辛らつなご  
意見を提示して頂いている三原先生に、昭和経  
済会を通じて天下に警鐘を鳴らして頂きたい

とかねてから希望いたしておりました。今日は  
与えられた貴重な時間ですので、早速お話をい  
ただきたいと思ひます。演題は、「大転換期に  
於ける発想の転換と、変わる世界、変れない日  
本」と、時代を象徴したテーマを頂戴いたして  
おります。

三原講師 皆さん今晚は、三原でございま  
す。こういう仕事をしておりますと、年に何度  
かは身に余る講演というのが有りますが、今日  
は紛れもなく、そういう会だと思つて参りまし  
た。と言いますのは、昭和経済会さんの方から  
テレビ東京の方へ、三原の電話番号を教えて貰  
いたいというご依頼があつたそうです。テレビ  
東京の方が佐々木さんの電話番号を伺つて、私  
の方から連絡するからと言ふことになりました  
た。ご連絡を頂いた時、私は関西に行つており  
まして、事務所の職員が、こちらに電話をしま  
した時に、昭和経済会とお仰るので、ネット

を見たら飛んでもない立派な会で、歴代講師を  
見てびっくりした次第です。折角のお話ですし、  
東京へ帰つて来て私自身が恐る恐る電話をし  
ましたところ、「娘を通してお願いする方法も  
あつたのですが、実はテレビ東京の佐々木明子  
は私の娘でございまして」と言ふ話で、私が一  
番弱いところを突かれた思ひでした。私には娘  
がいないものですから、こういう娘がいたら  
いなあとと思ふ程に、彼女とは仲良くしていま  
した。本当に憧れの娘像ですね。そんなご縁も重  
なり、喜んで参つたわけでございます。

私はリサーチにいたとか、経済学を極めた経  
験は全くありません。日本で十年、海外で十年、  
そのうち十年近くをアメリカとヨーロッパの  
三ヶ所で営業として働いておりました。又、私  
は生れ育ちが変わつております。恐らく全滅人  
種ではないかと思ふのですが、戦後の満洲生ま  
れの満洲育ちです。十歳まで日本を知らない日  
本人でした。従つて十歳までの九年間は、日本

の満洲支配時代で、いわゆる支配者側の立場で、奉天の街を歩いていたので、ある日突然状況はひっくり返ってしまったのです。日本の降服と、ソ連の参戦です。今までとは全く逆の追われる立場、逃げる立場に変わってしまった。道の端を歩かなければならない立場に変わってしまった。余り道の端を歩いていると引っぱられて売り飛ばされてしまうという状況でした。中国人なんて言うのは冷酷無比です。どきどきにまぎれて、日本の子供なんか中国人にかっさらわれて売り飛ばされた残留孤児は沢山いました。私はそういう時代の経験もしておりました。では出歩かなくて家に居たらいかいと言えは、家に居ればソ連兵が完全武装で中に入ってくるわけです。向うの機嫌が悪ければ、一家皆殺しにされてしまうと、そういう過酷な経験もしております。戦後一年経って、そのあと日本に乞食同然になって船から下りた時に、私は母親に、「日本にも満人が居るのか」と尋

ロスの支店長をしていて生意氣盛りでしたが、アメリカでリサーチが無くて、国債が無くて、商売ができるわけがありません。当時、アメリカで何が起きていたかというところを、小切手でも決済できるというMMAを駆使して銀行の決済部門を証券会社でも決済できる、小切手でも決済できるというMMAと、面期的な商品を開発していたのです。ところが我が社はやらないと言うのです。馬鹿と違ふかと言っていたのですが、そういうことだけは通ってしまうのが日本の会社で常なので、噂を聞いた友達か心配して「お前、本社で評判が悪いぞ」と言うので「何んで」と聞いて「親に逆らう子があるか」と言われているというのです。社長を親と思つたことではないと思つていたら案の状、私はロスの支店長から福岡支店の営業課長へ飛ばされたのです。同期に岩国哲人と言うのが居て出雲の市長から国会議員になっていきます。彼はロンドンに行つてい

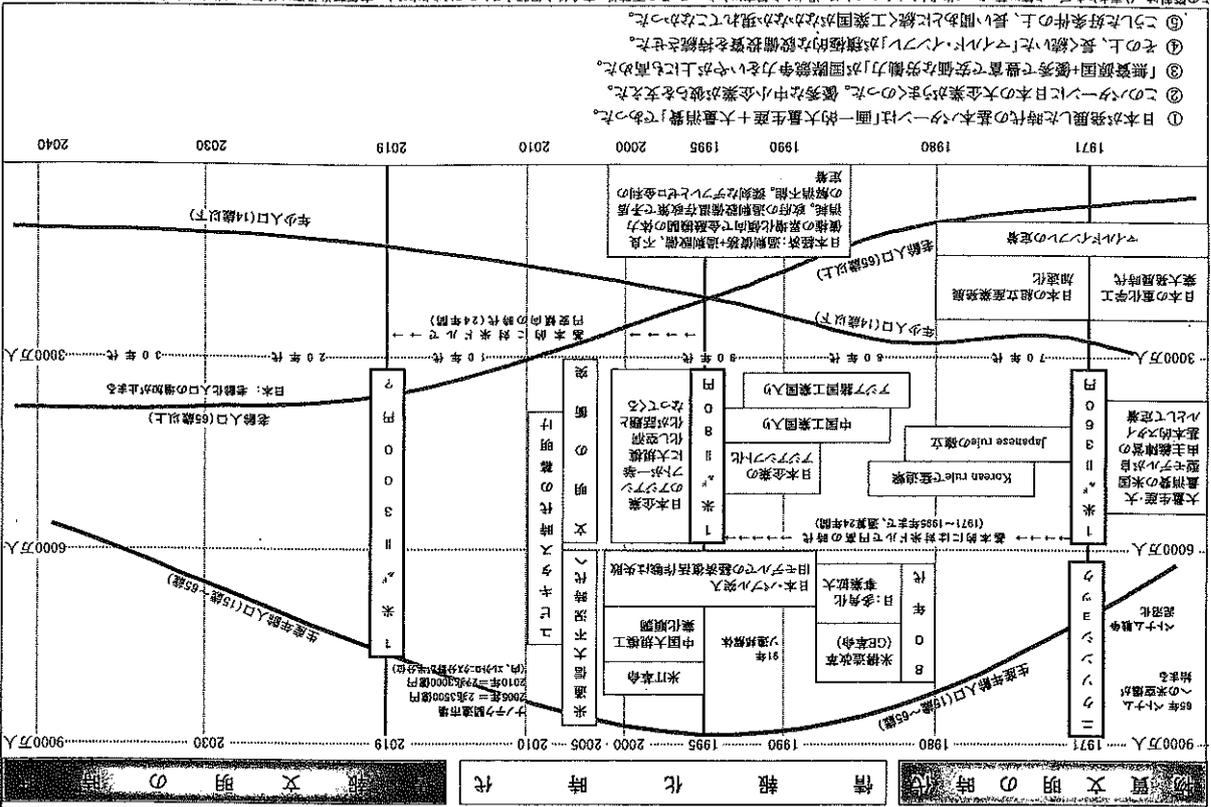
ねたと言うのです。満洲ではリアカーや馬車を引つ張ったりしているのは満人に決まっています。日本人はそんなことはしないという環境に育つて来ていたもので、当時は、ちょっと視点が変わっていました。その後証券界に入り、地方でも働きました。シカゴにあるロス・ウエストというところで向うのビジネスも学びました。その後スイス銀行に派遣されて、ヨーロッパのプライベート・バンクなどを研究して、その後、ニューヨークに行き、ロスにも行き、現地でも働きました。そんな経験を持つていながら、何故会社を辞めたのかというと、私は三〇年前に、これからは経営者の時代だということを感じたのです。私は勤めていた日興証券には、当時とても優秀な社長がおりまして、「株屋は株だけやつていれば宜しい。国債や債権、コンピュータ・リサーチ、これらは金がかかると要らない」と言うのです。こんな飛んでもないことを言う者が出てきました。私は千度

ました。同じようなことを言っていたので彼も飛ばされたのです。その時、はつと思つたのです。「変化を読んでいるな」と。僕は逃げようとして言っているのではなく、もつと仕事をしたいと思つて言っているのです。普通の人を感じても言わないことを、何故僕らができるのかといいますと、時代の変化を感じ取っていたからです。転職など飛んでもないという時代に、既に時代の変化で、私には外資系から声が掛かつて来ていました。ある意味で私は国際化の第一期生でしょうし、ヘッド・ハンティングや転職の第一期生かも知れません。岩国はマルガン・スタンプに移っていきました。それまでの常識が、ひっくり返ってしまったのです。当時は、大企業が拾つてくれると言う風潮ではありませんでした。大企業を辞めたら中企業へ、中企業を辞めたら、小企業へ移っていかなければなりません。そういう時代にもかかわりなく、私たちの場合は「年収の倍でどうだ、三

シトの中に、それからマーケットの外にいて既に五〇年、その間の事を見ていると、全ての価格が動く時には、その裏側に変化があるといふこと。目に見える変化も目に見えない変化もあります。変化があるから「株価が動く、物価が動く、金利が動く」と当り前な話ですが、どうも日本を見ていますと、これほど変化に弱い国民はありません。変化が起きると、すぐに人のせいにして何とかしてくれと言います。未だに、国に頼ろうとする人が多いのです。冷静に考えたら、国に頼れば自分に跳ね返って来ることは当然な話です。頼れば頼るほど、税金が上がるわけです。欧米には、そんな考えはありません。なるべく少くなく税金を支払って、なるべく国からサービスを引つ張り出そうと考えるのが、よその国です。日本には、ろくに税金も払っていない者が、国にたかっばかりいるのです。ですから、日本では漫画みたいな事が起こるではありませんか。「減税をやれや

倍でどうだ」と買取のレップ・ハンターが来ていたら、恐らく高条件を提示されている場合が多いのです。しかし辞めたくないから会社に行くのです。私はその時、今は意識を変えなければならぬ時代と言ったことを人事に言った訳です。その時、ふと思ったのですが、ドイツ語にグライン・シヤフトと、ゲゼル・シヤフトという言葉があります。私流の解釈では、日本はグライン・シヤフトなのです。社長以下、新入社員に至るまで、運命共同体と言っているのが日本の組織の出来方なのです。ところが欧米はゲゼル・シヤフトで、組織は個で成り立っています。この理解が進んでいけば、今後の不良債権の問題の処理の仕方でも、納得がいくのだらうと思っうのです。後程又、説明いたします。

### 日本型発展パターンが通用した時代から通用しなくなった時代への変遷



この資料は、公表されたデータ等に基づいて作成されたもので、過去の出来事や将来の予測については、その正確性、完全性を保証するものではありません。有価証券投資は株価の下落や発行者の信用状況の悪化により、投資元本を割り込む可能性があります。銘柄の選択、投資の時期などの投資に関する決定は、お客様自身の判断でなされるようお願いいたします。

れと言つて、貧乏人にはメリツトがなかつた」と。当り前です。税金を払つていないのに、どうして減税が出来るのかと。こうしたことを、誰も言わないのです。僕は、それを割合に言うものですから、今日は別ですが、講演会に行つたりすると、今日は辛口の三原さんに来て頂きましたと良く紹介されるのです。私は少しも辛口ではありません。辛口に関こそるのであれば、逆に貴方がたが甘いのではないかと言つので、こんな具合で、まるで喧嘩を売るつもりです。仕事をしています。それくらい急いで變つて貰わないといけません。世の中が大きく變つたのに、大變だ、大變だと言つてただけでは駄目でしょう。自分が大きく變つていければ、駄目ではありませんが、だから「金持ちいじめは國を亡ぼす」と言ふのが僕の持論なのです。金持ちを虐めて、栄えた国がありますか。ソ連がどうなりましたが、中共はどうなりましたかと、私は尋ねるのです。

余談ですが、それ位に発想を大きく變えて頂くためのヒントが、一ペーシのレジメなのです。上の方に書いてあるのが、生産人口の動向です。これから減つてきます。生産人口は団塊の世代が、どーんと引退するわけです。何が大きく變わるかと言つと後ろの方に「神話の國の神話の崩壊」と書いてありますが、我々が神話と信じていた神話が全部壊れているのです。その中のGDP神話です。未だにGDPを信じているだらうと思つるのは、この時期に「いざなぎ景氣」と言つのがありました。今回も「いざなぎ景氣」で、いざなぎ景氣の長さは抜いたと言われています。ところが馬鹿なマスコミは実感が無いと言つのです。当たり前でしょう。実感ないのあるわけがないのです。それをどうして言わないのだと思つのです。この時代のGDPの伸びと、しかも各自成長率の方が、実質よりずっと下だったといふのはこの四、五年続いていました。そんな時にどうして賃金が上げられま

すか。目成長率が伸びない經濟になつてしまつたのだと発想を大きく變えなければいけないのです。マーケットを見れば判るのですが、日本ほどマーケットを馬鹿にしている國はありません。この間も経産省の某次官が、「ライ・トリーダーは馬鹿で、浮氣者で、不真面目で、移り氣だと言つていました。よくもまあこれまで罵詈雑言を並べたものだと思えますが、この次官の発言はマーケットを全く理解していません。マーケットで、何が一番必要かといふのは、リスクをコントロールする為の人といふのは、リスクをコントロールしたら逃げて出そうとか、一百万円減つたら逃げ出そうとか考へて実行します。損は二百万円で限定的になるわけです。そのためには流動性が必要の

れと言つて、貧乏人にはメリツトがなかつた」と。当り前です。税金を払つていないのに、どうして減税が出来るのかと。こうしたことを、誰も言わないのです。僕は、それを割合に言うものですから、今日は別ですが、講演会に行つたりすると、今日は辛口の三原さんに来て頂きましたと良く紹介されるのです。私は少しも辛口ではありません。辛口に関こそるのであれば、逆に貴方がたが甘いのではないかと言つので、こんな具合で、まるで喧嘩を売るつもりです。仕事をしています。それくらい急いで變つて貰わないといけません。世の中が大きく變つたのに、大變だ、大變だと言つてただけでは駄目でしょう。自分が大きく變つていければ、駄目ではありませんが、だから「金持ちいじめは國を亡ぼす」と言ふのが僕の持論なのです。金持ちを虐めて、栄えた国がありますか。ソ連がどうなりましたが、中共はどうなりましたかと、私は尋ねるのです。

です。皆が長期投資家であつては困るのです。ダイ・トリーダーは、そうした重要な役割を果たしているのです。ですから、いろんな形の投資家がいてよいのですが、片方で、お金でお金を儲けることはマネーゲームだと蔑視する風潮があります。これは世界を全く見ていない証拠です。

イギリスが何故立ち直つてきたかと言つことを、是非一度検証して頂きたいのです。かつてイギリスは、もの作りの大國でした。それは、産業革命以來です。それが見る影もなくなつてしまいました。植民地は全部失つてしまいました。あそこまで落ちたポイントが、又どうしてここまで戻つて来たのでしょうか。その理由は國が形を變えたからです。今、英國でGDPに大きく関与している付加価値の大きな産業は「サービス産業」です。なかでも、金融サービス業のウエイトが高いのです。日本より人口が少ない國なのに、金融業に従事している人数は七〇

〇万人いるのです。日本は、これ程の金融資産や経済規模を持っているのに、金融からみの仕事に従事しているのは、二〇〇万人しかいません。ちよつと銀行に不祥事が起きたりすると、銀行員の月給が高すぎるとか、的はずれな世論が常に表に出るくらいですから、そんな国に未来はあるのかと思いたくもありません。こんな馬鹿なことばかり言ったりしては、一ドル三〇〇円になるよと言っているのです。つまり図で右側、即ち二〇一〇年のこれからの時代としてスペースを敢えてあけてあるのは、ご自分でそれなりに我が社の将来、わが孫の将来がどうあるべきかと言ったことを書いて頂こうと思っただからです。ですから下に解説して①から③までは入れてあります。これまで発展してきた時の日本です。④から⑩までは空けてあります。そこには、それぞれに自分の価値観で、ご自分の人生を作っていくかなければいけない時期に来ているのだと言ったことで、他意はありません

## わが回想記

早稲田大学名誉教授  
堀江 忠男

### ソ連の“新鮮な風”の行方(上)

(一九八六年三月八日記)

六日に開会となったソ連共産党第二十七回大会について『朝日新聞』(五日付)はこう書いた。

「『新鮮な風』(ソ連で流行の歌の題名)はヨルバチヨフ政治の代名詞となっている。…壮大な新たな実験が今、始まった」

ロンドンの『サ・タイムズ』紙(二月二十六日付)は初日の書記長演説を酷評した。「外国の聴衆に示すべきであつたらう新しいアイデアは、反西側的な言葉に飲みこまれてしまった。国内政策では経済の停滞、官僚の腐敗な

ん。①から③までのこの時期を、私は自分で働いてきています。その時期は、株で何を買ったらいいですかと言えは欲しいものは何でも買えました。そして、何でも上がつていったのです。これからは違います。誰が見たってトヨタがいいと、しかしトヨタは値段が高すぎる。であれば他の安い自動車株を買っていかと鹿なことばかり言ったりしては、一ドル三〇〇円になるよと言っているのです。つまり図で右側、即ち二〇一〇年のこれからの時代としてスペースを敢えてあけてあるのは、ご自分でそれなりに我が社の将来、わが孫の将来がどうあるべきかと言ったことを書いて頂こうと思っただからです。ですから下に解説して①から③までは入れてあります。これまで発展してきた時の日本です。④から⑩までは空けてあります。そこには、それぞれに自分の価値観で、ご自分の人生を作っていくかなければいけない時期に来ているのだと言ったことで、他意はありません

どについて古い古い古い解決策しか打ち出せなかつた。」  
どちらの評価が当たっているか。真理は中間にありそうだ。“新鮮な風”が吹き出していることは確かだ。一つは国際関係における平和攻勢。もう一つは国内改革における創意性・自主性の奨励だ。

前者については、ジュネーブ・サミットで打ち出されたヨルバチヨフ書記長の平和路線が、網領「新稿」(一九六一年の第三次網領の新稿Ⅱ改訂版)で「理論的」に裏つけられている。「世界大戦の宿命の不可避性は存在しない。戦争を防止し、人類を破局から守ることは可能である。ここに社会主義、…進歩勢力、平和愛好勢力の歴史的な使命がある。」(網領、第一部第二章)

それに引きかえ資本主義はどうか。  
「まだ強くて危険だが、既に頂点を通りすぎた資本主義搾取の世界が将来に向けて前進する

社会主義社会に対抗している。資本主義の全般  
的危機は深まり、歴史的滅亡の運命がますます  
明らかになっている。帝国主義は社会主義革命  
の前夜である。」(同右)

ゴルバチョフ書記長は徹底で現実主義的な政  
治家だ、といわれる。だが、その人物が主宰し  
て作った新稿の、この現実離れぶり。第三次網  
領から、基本的に一歩の前進もない。ブレジネ  
フ書記長時代にこんな小話が流行(はや)った。  
—彼がある朝びつしより冷汗をかいて眼をさま  
した。

「どうかしましたか。」

「世界中が共産主義になってしまった夢を見た  
のさ。」

「けっこうじやありませんか。」

「いや、不足食糧の輸入先がなくなる。」

そればかりではあるまい。ハイ・テクの導入  
先も国際融資の申込み先もなくなるだろう。社  
会主義諸国は経済停滞から脱けだすために、先

## 人生闊歩

〜日米街道を行く〜

## ラニコ岩本

次に紹介するのは、英文「学生編」の体験談  
のひとつを和訳したものです。

「アドバンスド・クリエイティブ・ペ  
インディング」

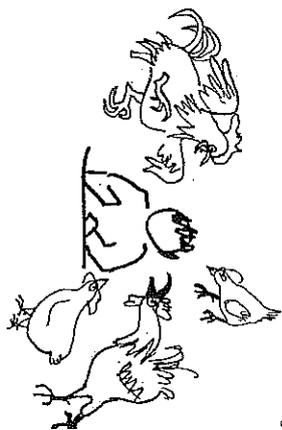
或る日、突然、私は例え様の無い疲労感に襲  
われた。無理も無い。日本からやって来たばか  
りの留学生で、語学のハンデイヤップもある  
というのに、アメリカの学生でもヘビーな十七  
単位の授業スケジュールをこなし、かたや、学  
費と生活費を補足する為、週二十五時間アルバ  
イトをするという生活だった。若し夜四時間、  
睡眠時間がとれば、ラッキーだったから、疲  
れ

れたのは当たり前だった。しかし疲労は、肉  
体的と言うより、もっと心理的で精神的なもの  
だった。当時、具体的には一九五七年、学者たち  
は、人が全く異なった文化圏で生きることにな  
った際の日常生活上での混乱や疲労困憊の体  
験を「カルチャー・ショック」と表した。

私が当時体験していた「カルチャー・シ  
ョック」を描写するなら、それは多分、「夜間を聞  
かず、奇声をあげて私の回りを飛び回るチキン  
の中」に在る感じ、となるうか。休息なし、平  
和なしだった。クラスで考え事に耽っている  
と、アメリカの級友はすぐさま傍に来て、「何  
もすることが無いなら、XXXXをしよう」とい  
う。何もすることがない、って？私はライタイ  
ムスタイルを重んじる文化圏の産物だから、  
頭の中は常に「忙しい(busy)」のである。し  
かし私の愛すべきアメリカのクラスメートだ  
ちは、動き回っているか、何か声を出してしゃ

べつになければ、その人は「忙しくない」と

なるらしい。



「そこにただ座っていないで、何かしようよ」

それで私は、クラスの間読書しているふりをすることにした。「ふりをした」というのは、日本の本が雑誌のページに顔を埋めていれば、表面的に「忙しい」ことになり、アメリカの級友たちに、「何もする事がないなら…」と

### 私には自然が必要

私の頭脳の疲労は極限に達していたらしい。或る日私は声を出して、「ああ、自然の中に行つて、お日様の下、草の中に寝そべつて、何も考えずにポーッとしたい！」と言つた。私は、ただただ休みたかつた。独りになりかつた。これら叫びまくつて私を苦しめるチキンドもから開放されて、平和になりたかつた。太陽のもと、草の中に寝そべるのが、これらの喧騒から逃れるのに理想的方法と思われた。勿論それは、手に入れることが出来ない願い事だつた。私は働かねばやつていけない貧乏学生だつたし、落第しないように勉強せねばならなかつた。つまり、ノーマネー、ノータイク（お金は無し、時間も無し）。しかし、私のニーズが途方もなく強烈だつたからか、とあるアイデアが頭に閃光の様に閃いた。「必要は発明の母」と言つたのは、誰だつ

たろうか？私の頭の中に、稲妻さながらに閃いたアイデアとは、「自然の中に行けないなら、

自然を自分の方に持つて来れば良い」だつた。こうして、それは始まつた。一発見の旅、ど

うすればそれが出来るのかの秘訣の発見である。「IT(それ)」とは、あなたの周りの人達が、思い込んでいる決まつたやり方で「なけれ

ば」、そんなこと出来ない、出来っこない、と口をそろえてあなたに言う全てのことである。「通例の決まつたやり方」？それは、あなたの

周りの人達の殆んど頭の頭の中にある「コンセンソス(常識)」のこと。そう「IT(それ)」

をする「正しいやり方」のこと。例えば、「それ」のやり方を学ばず、あなたは学校に行く必要がある。とか。私は、常識に従つて「それ」

をする必要がないことを、発見した。私達がすべきことは、単に、「考える」だけなのだ。そしてその方が、もつとずつと、面白いやり方となる。(つづく)

しかし彼らは、それでも私に安息も平和も与えてくれなかつた。次々と、入れ替わり立ち代り私の机の傍に来て、「あなたは何をロジック(間違つた)側から本を開けるの？」と言つのである。日本の本は右側から開けるが、アメリカ、そして殆んど西側の国もそうだろうが、左側から開ける。しかし、これらアメリカのクラスメイトは、私の日本の本が、「フレイメント(違つた)」又は「オポジット(反対)から」開くとは言わなかつた。全部が、「ロジック(間違つた)側から」と言つた。これは、私にフッド・フロア・シート(考える糧)となり、ますます考えることを増やすことになつた。私には既に沢山の考えねばならぬ事があり、その上考えることが増え、考えるほどに疲れは増していった。私の頭脳はまるで永遠にスイッチオンされたコンピュータのように活動し続け、私はスイッチを切るすべを知らず、恐怖感さえ覚えた。

言わせない為だつた。

## 物事、難しいことはない

井浦 康之  
(当会理事)

「難しく考える」のと慎重さは  
似て非なるもの

考えるよりもまず行動することが大事だなどと言うと、「猪突猛進」型の猛烈人間であるという誤解を招くことがある。また、逆に、できるかできないかの可能性を考えて、十分やれりと判断してから、行動に移そうとしている人間は「石橋をたいてわたる」式の慎重な人間だと思われる節があるようだ。

そのときの自分の心の中をよよくよく覗いてみれば、「できないのはやらないだけ」であり「できない理由をあげているのは、やりたくない理由をあげているだけ」であり「慎重になるから難しいのではなく、やりたくないから難しい」のだということがわかるはずである。

たとえば、ある繊維問屋に就職をした知人の若いときの体験がある。彼は、新入社員教育の研修が終わって、商品に対するそれなりの知識も得た。しかし、セールスに出て行く自信がなくて、事務所で商品の勉強をしていたという商品のことをもっと知っていないと客に失礼だと思つてと言いつつ訳する彼を見たら彼は一喝した。

新人が一人前に商品を覚えるまで待つていたら、会社はつぶれてしまう。基本的なことは教えたのだから、お客様のところを回つてこい。わからないことは、あとで調べればいいのだ。セールスが動かないで、どうやって商品が

る人間は必ずしも猪突猛進型の人間であるとは限らないからである。猪突猛進とは文字どおり、猪のように前もよよく見ないで突つ走り、穴である。だから、切り株に鼻をぶつけたり、穴に気つかず落ちてしまつたりしてケガが絶えない。

無鉄砲で何をするのか分からない人間であるというそしりを受けるだけである。周囲の間もあぶなつかしくついでにいけないということになるだろう。私が、考えるよりも行動し言うとき、それは、こうした、猪のように無闇に突つ走れと言っているのではないのである。そして、できるかできないかを考えてからなると言っている人間に言いたいことは、それは慎重なだけではなく、臆病なだけなのだということである。ものごとを難しく考えるのは決して慎重だからではない。考えれば考えるほど、ことは難しくなり、だめだとか無理だとかという心持ちになつてしまふ。

売れるのだというわけである。怒られて当然である。彼は慎重だったのではなく、ことを難しく考えすぎて、さらに言うなれば、セールスに出掛けるのが嫌で行動しなかつただけだったからだ。セールスに限らず、こうした例は日頃の生活の中でもよく見受けられる。

たとえば、泳げるようになりたいと思つてもあれこれと頭の中だけで考えていて、一向に腰が上らないなどといった体験は覚えのある人もいるだろう。顔に水がかかるのでさえ我慢できないのにとか、自分は鼻が弱いから、鼻に水がはいつたら困るなどと考えて逡巡してしまふわけである。

こうした、できない理由をあれこれあげて行動に移そうとしないのは、雨が降っているからとか風が吹いているからと言つて、家の中に閉じこもつているようなものだ。閉じこもつていたのでは何も生まれない。難

しく考えずにまず行動してみることが大事である。行動することで、自信が生まれ、自信を持つことで、さらに仕事もうまくいくものである。考えるよりも行動することは、決して猪突猛進せよという意味ではないことが分かると思う。

そして自分は慎重だから、よく考えてからと思っているのだと言う人は、一度自分の心の中をよく見てみてはどうだろうか。自分の正直な気持ちを直視することが、つぎのステップに進む重要な要素であると思うからである。

### 好きな道ならば、

### 難問は難問でなくなる

NHKの人気番組に『ようこそ先輩』というものがある。各界で活躍している人が、自分の母校へ行つて、子どもたち相手に授業をするという番組である。講師は、フランス料理のシェ

しかし、私が安藤氏の生き方にふれて感動したのは、もちろん、高卒の学歴で東大の教授になったという点ではない。それは、あくまで結果がそうなったというだけのことであり、氏が東大の教授になるために、数々の難問をクリアしてきた訳ではないと考えるからである。

それは、氏の生い立ちを見ればわかる。氏は「ようこそ先輩」の中で、子ども時代の思い出をやさしく語りかけている。みんなと同じくらの年齢の小学校のころ、学校への行き帰りにいつも足を止めたのは、大工さんたちが大勢で仕事をしている建築現場だったという思い出話である。

大工さんたちの手際のいい仕事ぶりを飽きずに見ている少年に、一人の大工さんが「ボク、大工の仕事が好きなのか」と声をかけた。「だって、おじさんたちは、何かわかんないけど、板をけずって穴をあけていて、それが家になつていってしまうんだからすごいね。大工さんの

つや芸術家、漫画家、弁護士、お笑いタレントとあらゆる分野から選ばれている。いずれも、その道では一流の人々ばかりだから、個性あふれた授業は非常に魅力的で、生徒たちの心をしっかりと捉えている。

建築家の安藤忠男氏も、母校に招かれた講師の一人である。安藤氏は、ご存じの方も多いと思うが、高校を卒業してから、ほとんど独学で建築を学び、国際的な賞を獲得して認められたという人である。最近でこそ多少の変化の傾向が見られるが、学歴社会の日本で一流の建築家として認められるのは大変なことである。氏もおそらくは、人知れず苦勞したのではないだろうか。

こうした、世界的な賞を得ることも、学歴にとらわれない実力を示す手段のひとつだったろう。氏が現在、東大の教授として迎えられるようになったのも、それがきっかけだったと思

仕事つてすごいと思う」と少年は答えた。今は、家を建てると言つても、ほとんどの作業は人の見ていないところで行なわれ、あつていう間に家の概観はできあがってしまうことが多い、しかし、当時、家を建てている現場は、カンナをかけたたり、墨壺からひいた糸をピンとはねて印をつけたりと、さすがプロと思わせる作業を目の当たりに見ることができた。口にいっぱい含んだクギさえも、あんなことがよくできるなど感心するものになった。

さて、この、大工さんの仕事ぶりをすごいと感動している少年に声をかけてきた大工さんは、続けてこう言つたという。「君が将来どういう仕事をするか、おじさんにはわからない。だけれど、好きな仕事をしなよ。仕事を好きになるんだよ。おじさんは、この仕事が好きなんだよ。だから楽しくしてしようがない。仕事をするならば好きな仕事をするんだよ」ということを何回も言つたそうだ。

毎日のように、飽きずに見ていた建築現場と、大工さんに練り返し言われたこの言葉が、氏の将来を決めた。自分の好きな仕事は何か、建築だと決めた原点は、子ども時代の道草にあつたというわけである。

母校の子どもたちに優しく語りかける氏の穏やかな風貌からは、苦勞の影も見いだすことはできない。しかし、東大の教授として迎えられるようになるまでには、多くの難問が立ちのぼっていたらうことは想像に難くない。好きな仕事ならば、どんな難問でも難問でなくなるといふ典型的な例と言つてもいいのではな

いだろうか。

しかし、世の中はそう甘くはないもので、好きな仕事にばかりつけるとは限らないのが世の常である。人つき合うのが苦手だから機械を相手の仕事が出来ないと思つて、車の部品を作る会社に就職したのに、営業に配属されたなどという話はよくあることだ。そういうとき、転

て、居残り勉強などいつものことだつたらう。しかし、氏は、居残り勉強させられては、余計な時間を嫌いなことに費やさなければならなくなると考えた。どうせやらなければならぬのであれば、楽しくやるに越したことはない。と考へて、楽しくやる工夫をした。その結果、能率も上がり、成績もあげることができたといふ。それはのちに『ホノホノ勉強術』という本に結実したそうである。

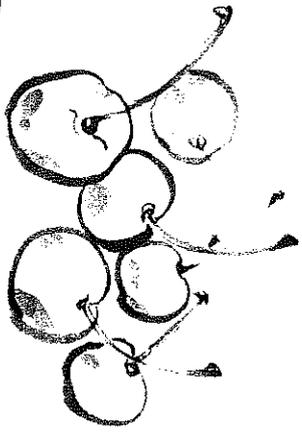
こうした例を見ると、好きなことならば難問でなくなるといふことがよく分かると思ふ。もし、嫌いなことをやらなければならぬといふれば、好きなことになる努力をすることが、難問を易しくする最良の方法なのである。(つづく)

職をしてあくまで好きな仕事に固執するのむ一法だろ。しかし、与えられた仕事を好きになる努力をしてみることも大事なのではないだろ。か。

仕事にしても、勉強にしても、嫌だ嫌だと思つていたのでは、成績もあがらないから、ますます嫌になつてしまふばかりである。どうせやるなら、楽しくやるうと思つてやつたほうがすつと気分がいいものだ。自分の意外な一面を発見することもできるかもしれない。

楽しいと思へば、心に余裕も出てきて、新しい発想も湧いてくる。いつのまにか、営業の仕事が自分の天職だつたと思へるようになるかもしれない。

心理学者の多湖輝氏も、こうした発想の転換で学校の勉強ができるようになった一人である。氏はいたずら好きで周囲の人を悩ませたというから、頭はいい人だつたのだらうが、学校の勉強は大嫌いだつたといふ。成績もよくなり



作品 関根常雄

昭経俳壇

遠藤蘆穂

苗植ゑるどろんこ遊びの孫二人 三 郎 教会は皆イエスなり復活祭

あげひばり雲に紛れてうせにけり

言問の堤の桜八分咲き

雛納め夕べを告ぐる寺の鐘

○隅田川渡り花より団子かな

◎農機具は研ぎ揃へしも菜種梅雨

○欠伸して散財疲れ花疲れ

◎草笛を吹けば昭和の音色かな 悟 風 冷酒に雑言とぶや腹の虫

○鯉幟千の風吹く竜神峽

新緑の木地師の里の木曾路かな

風止まり骨抜きのごと鯉幟

山藤の縋りつきたる大樹かな 千鶴子

はないでやがてさびしきカーネーション

○郭公や信濃千里の目覚めたる

人波をひきずり散らす荒神輿

遠郭公芭蕉の径は坂ばかり

水中花すばやく咲いてそつけなし

アネキンのまばゆき胸に若葉風

螢火のただよふ川に足とられ

たんぽぽや少年阿修羅の手にかざし

しなやかな女竹の影は涼しかり

春曙伊勢物語で明けにけり

○菊根分け老婆のしわの慈愛の手

富貴男○吾輩は猫であるまだ恋知らず 剣太郎

春の虹牛の乳房のゆたゆたと

恋猫も乙女もおくて北の国

上り築夕日の残る嵐山

裏路を行くが好みよ沈丁花

山桜紅燃ゆる金閣寺

桃の花ビシクの影を地におとし

開拓を諦めし碑や雪解水

田返しに牛疲れしか目の潤み

雨に煙る山桜花人まばら

フエト  
ズル

畦塗りや水面に泳ぐ鯉のぼり

今日も雨熟れたる梅の落つなのみ

田返しやどじょうは夕餉の野菜汁

○水はりて田面に裏山覗きをり

○鼻棒を廻す少女の土起こし

風そよぐ梢まぶしや五月晴れ

田植終え妻を労わるにぎり飯

田を返す度にどじょうをつかみけり

どんぐり

さつま富士裾の畑はあげひぼり 長谷川

のどかなり麓の里の雨上がり

春の宵最終列車にとび乗りて

○夏は来ぬ丘を越えてと口遊み

谷川を跨ぐ三百鯉のぼり

五重塔遙か背にして田植ゑかな

桃の花鉄橋渡る貨車五輪山人

長野市にオリンピックの黄砂降り

阿蘇の山ぜんまいの字の萌え出がる

○山なみに花と光の仏生会

初恋を偲ぶ白浜桜貝

海女あがり浜に溢るる健康美

### 後記隋想 佐々木誠吾

猛烈な勢いで原油が騰っている。五月八日付朝日新聞の夕刊紙で、一時二五ドル目前と云う記事をみてびっくりした。つい先頃一〇ドル台乗せてビクビクして度肝を抜かれていた日本では暫定税率の期間限れでガソリンが一リットル三〇円程値下がりして喜んでいたが、一ヶ月後には税率が復活、ドライブはガツクリしていた矢先だけに、原油の最高値更新で、またぞろ将来が不安である。ガソリンの値上がりも更にということのなりかねない。そうしたら、車に乗らずに歩いていく、この方が健康的である。ところで、この日のニューヨーク株式市場は二〇ドル以上も急落、銀行、証券株の業績低迷と、全般的な先行不安で一気一憂するマーケットだが、悪材料織りこみで目先の足固めと、ようやく動きかけた回復基調への出鼻をくじかれた恰好である。

同時に米エネルギー情報局は、二〇〇八年のOPECの二〇〇八年の原油の全輸出収入が一兆六〇〇億ドル、日本円にして一〇兆円に達すると報じた。これは前年度の五七%増で、原油の価格が如何に驚異的かが分かるのである。その金が何処に行くか、そこで私は経済評論家に成りすまして、私なりに大雑把に、次のような見通しと見解を立ててみた。

一 OPEC加盟国はダブついたドルが国内に還流して、過剰流動性に見舞われた形で既にバブルの様相である。この金を産油国自体で長期的な技術分野で活用する手立てを、彼らは持っていない。

二 原油高の影響で、先進国の経済力は停滞気味であり、経済の減速、停滞気味の中で、逆にインフレに警戒を強めているので、OPECが貯め込んだ膨大な資金を吸収、消化できない。資金需要は、後ろ向きの資金調達で、オペックにとっては早晩、不良債権化する可能性がある。

それを回避するには、良識的な投資先としての日米欧諸国の株式市場の安定化と回復が望まれる。とりわけ日本については尚更である。

三 このイン・バランスは、次の経済的混乱を惹起する可能性ある。オペックは安閑としていらなくなる。

四 一難去つて又一難、金融、株式市場の混乱と急落から投機資金がシフトして、原油市場に投機資金が奔流し、その狼藉ぶりが現代を象徴している。

五 原油高に端を発した資金の編重に対処するため、例えば原油消費国（先進国）は、OECDに對抗して技術輸出同盟（OTEC）を結成する段階である。これは経済の相互依存関係を緊密化して、グローバル化に適している。技術の流失を防ぎ、産油国の資金を、日米欧の株式投資に促し、資本連携を促すためである。六 原油高を阻止するため先進国は、株式市場を回復させるための確地の、制度的支援策を

五月五日、不肖四人兄弟の次男の孝次兄が亡

くなった。救急車でかりつけの昭和医大藤が丘病院に運ばれたが、途中で心肺停止となって駄目だった。電話で緊急の連絡があったが、私はたまたま庭に出ていて土起こしをしていて気がつかなかった。妻は二階に居てパソコンを打っていて、電話の音が聞こえなかつたらしい。十分ほど後に気がついて、妻は慌てて家を出た。心肺停止の状態と聞いたが、間に合うかもしれなうと思ひ私も直ぐに家を出た。孝次兄は十三年前に妻に先立たれ、子供がいなかったので、その分さびしい境遇だった。しかしその後、家電業界で大活躍し、五年前に第一戦から退いた。若い時は兄弟中で一番健丈だったが、長じてから喘息が出て本人は、職業病だといっていた。自らはそろそろ、施設の完備した老人ホームの入居を希望していた。

兄夫婦は生まれ故郷の浅草を出てから、初め

促す必要がある。特に日本に対しては、法整備と、規制撤廃に向けた自由なマーケットを旨とし、努力すべきである。

七 原油高が世界の商品市況、特に農産物価格の高騰を招いて、特に後進国の食糧危機を招いて、政情不安を加速させている。

八 エタノールの増産の結果としてCO<sub>2</sub>の排出を加速し、加えてトモロコシ、小麦等の穀物産品の価格騰貴を招いている。エタノールの増産を停止し、他に代替性を更に開発すべきである。

九 先進国の含み資産の増大を計ること、これは金がかからず、法律、制度の改革で可能である。官僚が固執する規制の法律、制度を壊体し、時代に合った構築が必要である、これは勇氣ある決断と、才智が要求される。コストが限りなくゼロに近くて済む話である。役所の言いなりの大臣は、この際国費の無駄使いであつて、即刻首を擲え変えるべきである。

は以前から好きだった田園都市線の沿線の、市

ケ尾に居を構えていた。十四年前に妻がなくなつてからは、私たち夫婦も、鎌倉に住む弟夫婦も、独り身の兄を思いやり、事あるごとに励まし続けてきた。丈夫だった頃は、時々来てもらつて夕食をともにしたり、訊ねて行つては食事

に誘つたり、お正月の二日には必ず拙宅に呼んでお節料理をともにし、夏のある時は、箱根のビューンジョンにさそつたりした。不思議と喘息は完治したものの、その後になづらつた肺の手術をしたこともあつて疾患に過敏になつていった。その後において入退院を繰り返す身となり、その都度幾度となく出向いては、日常はもとより、私の妻が労を惜しまず、面倒を見

てきてくれた。何かあると、妻によく電話をかけてきていたようだ。兄の気持ちを聞いてくれていて、用事のあるときは必要なものを送つたり、見舞いに行つたりしてくれていた。

本人の希望で三年前に転居した先は、田園都

市線の鷺沼駅から程近い、老人ホーム寿楽園、「ケアハウス青田風」である。新しく出来た立派な施設なので、環境は抜群であった。綺麗で明るい近代的な建物であり、設備はすぐれており、空間も広く採られていて、四階の快適な個室から見た外の眺望も素晴らしい。そして何より職員の手厚さであり、親族としては安心し感謝していた。

青田風の青木さんには日常、事細かに面倒を見てもらっていたのである。葬儀の先を紹介されたセシモニア溝ノ口は、溝の口駅から程近く、新しく出来た会堂である。私が喪主を勤めた。ご無礼であったが、生前からの本人の希望もあって知人、友人にはご連絡しおげず、身内だけで七日に通夜と、八日午前十時から告別式を取り行った。セシモニアでは綺麗な祭壇を用意してもらい、とりわけ沢山の生花で祭壇を飾って貰い、兄を色とりどりの美しい花々で豊かについで貰った。静かで、清らかな葬儀であった。

の森に、うぐいすの盛んに高鳴く声が聞えた。ご住職自らの運転の車の後部座席に乗せていた斎場から、こどもの国駅近くの恩田にあるご住職のお寺、南福寺に向かった。遺骨を四十九日まで安置しお守り頂くことになった。車は246号線に入り南に向った。元もこの地域はなだらかな丘陵地帯で、戦後暫くしてから良好な高級住宅地として開発が進み、田園都市線という程に、緑豊かに、気品よく栄えていった街々である。兄が住んでいた市ヶ尾を通り過ぎ、ケアハウス青田風がある鷺沼駅近くを通り過ぎ、昭和医大のある藤が丘の綺麗な街を見て通っていた。自分の住処であり、好きだった田園都市線の沿線の明るい街々や、森や川を再び振り返りながら、兄は最後の別れを告げていくように思えたのである。信心深かった兄を思い返し、今は、ご住職の車の案内を受けて思いを果たし、天国への旅立ちば、あたらかな安らぎにあって、全ては尽きていると思つた。

人の一生は棺をおおうて定まると云われるが、今そのことを実感として思い返している。

葬儀を通し、真宗・大谷派の南福寺、ご住職の工藤貴弘法師が招かれ、終始、厳粛に行われた心のこもった法経を朗唱して下さり、故人を限りなく、手厚く供養していただいたのである。お通夜では、不思議と和やかな時の間に打ち過ぎた。これも故人の遺徳の賜物だと思つた。

翌日の告別式を終え、十一時に出棺のおと十二時、津田山綜合斎場に着いた。斎場の二階の広い優雅な座敷で昼食をとりながら、外のきらめく若葉の景色を眺めながら、疎開先の少年時代、苦楽をともにした兄との過去をしみじみと思ひ出していた。二時間後に私が兄の遺骨を抱き、弟が位牌を持ち、私の妻が遺影を持って斎場を出た。この瞬間、兄との肌身に触れてきた関係は、非情にも運命的に、決定的に切り離されたように感じた。何だか諸行無常の切なさに追いつままれていたが、それでも尚、薫風そよぐ五月

考えてみると、人はそれぞれに生き方があつたが、生涯を自分の思うままに行動し、頑なにまで貫いてきた感じである。車の中で、私は疲れて途中から居眠りしていた。妻は遺骨を落としてせぬかと、はらはらしていらした。菩提寺は、市川国府台にある即隨寺であり、そこに孝次兄を埋葬する。伊藤左千夫の名作「野菊の墓」の舞台となつたところである。

五月九日

六月四日、米大統領選挙の民主党候補にオバマ上院議員が確定した。一年近くに及んだヒラリーとの指名争いの選挙は熾烈を極め、各地で激戦を演じたが、接戦の末の勝利である。当初、女性候補となつて大統領の座を射止めるかと思われていたが思ひは断られた。黒人出身のオバマ氏が十一月の本選挙で、共和党のマケイン上院議員と戦う。今迄のアメリカが何処まで変わつていくか、両陣営とも争点はそこに尽きる。

私は昨年の五月末にニューヨークに発った。その後、一気に書いた後記隨想に時期大統領選挙に向けた民主党の予備選挙にふれて書いて書いたが、無名の黒人候補オバマがヒラリー・クリントンの強敵として浮上する可能性があると書いた。その後の選挙戦は正にその通りとなった。アメリカの麥革を前面に出し、閉塞感に悩むアメリカの現状打破を訴える強烈なイメージは、インパクトが大きいと思つたからである。両候補とも個性が強く、抜群の素質を發揮して優劣付けがたいが、軍配の手はオバマに上がった。若き獅子、オバマは、十一月の本選挙に向けて、共和党のマケインを相手に獅子奮迅の戦いを挑むであろう。経験不足と未知数の点は、老獪、熟達のマケインと対照的だが、何よりもオバマの若さと情熱と新鮮さ、そしてバイタリティは強みである。予備選でクリントンを下し、オバマを選んだアメリカ国民の決断と英知は、揺るぎないものと確信しているし、若きオ

バマは老練のマケインと互角の戦いを演じるであろう。

いまや問題山積はさらに深刻の度合いをましているし、貧困と環境問題は解決を急がねばならない。全ては地球規模の政治、経済、文化の展開でフラットでスピードが加わつた時代に変わってきている。旧態然のしがらみと考え方で、解決が難しい世界と地球規模の未来で進めるオバマに今、世界の熱い視線が注がれている。十一月のアメリカ大統領選挙の結果は、世界の将来の指針を画期的に決めていくものとなるだろう。本選挙はその基礎を占うものである。オバマは予備選の熾烈な結果で、本選挙での遅れを採つたが、民主党の体勢の立て直しを図り、正々堂々の戦いを演じてもらいたい。心情的にはオバマにアメリカの改革を託し、世界の平和と安寧に尽力してもらいたいと思う。

.....

しとやかで優雅な感じさしてくる。身の丈をくねらせて立つ姿は妖艶な雰囲気でもある。葦がねじれながら小粒の花を下からつけていく。早めに芝生を刈つて過去に二度程、ねじり草を見誤つて刈つてしまったことがあった。しばらくの間は可哀想に思つていて、くやまれてならなかつた。その年は、七本のうち、二本をつんでしまつて、あとの五本の成長をいとしみながの花を珠玉のように付けて孤高の風情もあつて、ある一面、毅然と立ちすくんでいるようである。目の詰まつた芝生の強い根に打ち勝つて、芽を出す力強さに驚いている。一見して、かよわく感じる草である。ねじれ草の、何処にそんな逞しい力が隠されているのか謎に思うことがある。葦がねじれながら伸びてくるので、私は「ねじり草」と呼んでいる。葦がねじれているから、人間にたとえれば偏屈な性格と鬱陶かとも思いがちだが、決してそうではない。ねじれて咲く風情は、何処となく

庭の芝生の中からねじり草が七本、今年も約東通り出て来た。十年前頃から毎年見届けて可愛がつているものである。踏みつけられた堅い地面から芝生の目を分けて出てくるのは、野生とは云え、むしろ生に対するほのぼのとした愛くるしきを感じている。暑い夏の盛り、十二センチ程に伸びた一本の細い葦に、小さいピンクの花を珠玉のように付けて孤高の風情もあつて、ある一面、毅然と立ちすくんでいるようである。目の詰まつた芝生の強い根に打ち勝つて、芽を出す力強さに驚いている。一見して、かよわく感じる草である。ねじれ草の、何処にそんな逞しい力が隠されているのか謎に思うことがある。葦がねじれながら伸びてくるので、私は「ねじり草」と呼んでいる。

株の数が七本以上に殖えないのである。その謎を詮索する気持ちもないが離ればなれに、毎年同じ場所に必ず出てくる。葉の形は芝の芽と区別しにくい程だが、一株に三センチ程の二枚から三枚の葉っぱが付いて、芝よりも色が濃く僅かに幅が広いのが特徴である。妻にも庭に出る時は、踏みつけたりしないように注意させている。今年も七本のねじり草は、無事に花を咲

かせることだろう。

五月六日は子どもの日の振り替え休日、朝から素晴らしい五月晴れとなつて、終日、薫風穏やかな氣象にうち過ぎた。妻が玄関を出た左手の庭の入り口に、鉢植えの「鉄線花」を土に植え替えたが、暖かな冬の日の光をうけて、いつの間にか細いつるを網にからませて育ててきた。そしてつい一週間前、いくつかつけた蕾の一つがほのかにふくらんできた。そしてその後、氣付かずに居たら、いつの間にか薄むらさきの大きな花を開かせた。得もいへぬ優雅な風情に、うっとりときさせられた。

その後六つと咲いて、それが又、鶯が斜めにからまりながら伸びて、縦長にそつて段々に程よく花をつけたので、美人の立ち姿を思わせるように何とも云えぬ優雅な立ち舞い咲きに、心を奪われる思いをしている。その鉄線花は柿の木の本漏れ目を受けて、ほの暗さの陰影に味わい深く、まるで小林古径とか、川合玉堂

が画くような世界を演出してくれて、居ながら

にして日本画の幽遠さを味わっているが、時に私は何とも無粋に、これをカヌラに収めている。向う隣りの小池さんの奥さんも「綺麗ですね。何とも云えない程に」と感心して見られている。すずらんは数年前に植木市で一鉢買って来たが、これも庭に植え替えたところ、いつの間にかどんどん殖えて、今では三平方メートル四方に広がってしまった。今年の今もすずらんの花が沢山さいて、あたり一面に高貴な香りを漂わしている。すずらんと云えば、北海道だけのものと思つていたが、高等学院の修学旅行で、札幌郊外のトラピスト修道院を訪ねた頃と趣きを重ね合わせているので、情緒的にはその方がすずらんの香りを濃厚に思ひ出せるのである。小粒で純白の可憐な鈴の花を沢山つけて、清楚な趣きに似合わず、澄み切つた馥郁とした香り

を、いとも濃厚に辺り一面に放っている。

おやめも今年は何本も咲いた。濃むらさきの

人にどうぞお持ち下さいといつて分けてやるうかと、「但し、お心付けと称して箱を置いておくのさ」と言つたら妻が、直ぐにそう云う氣を起すのだからというので、サイクロンのミヤソウや、地震の中国の被災地に、少しでも多く義援金を届けるつもりなんだといつたのである。

中国四川省で起きた巨大地震の被害は甚大である。広範囲にわたり、且つ、震源地が浅い上に、内陸部の山岳地帯にも奥深く及んでおり、被害の実態が把握できないでいる。がけ崩れや、家屋の倒壊の下敷きになって、地震の規模からすると、不幸にして犠牲者は何方という数になつてしまつたらう。行方不明者を含めると、はつきりした犠牲者は十万人を超してしまふのではないか。この種の災害は、後になつてから、犠牲者が教を増してくるのが常である。人命救助は、時間との戦いである。

花びらだが、なるべく咲く前に、早めに切り取つて生け花に使つたり、切り取つて花瓶に挿したりして、豪華な花の精を見とどけて楽しんでゐる。おやめはそれぞれに趣を持つて、種類も沢山あるらしい。庭に咲いているおやめは、薄いと紙を紫色に色染めしたような花びらであらう。見た目より繊細であり、華奢である。雨や風のゆれに、その形をすぐに崩されてしまふので、見ごろが短く微妙である。一年前に三井さん根が根株を少々持つてきて下さつたのを土に埋めておいたもので、その後、株も大きく数を増していった。今年は何本も茎が伸びてきて、あとからあとから沢山の妖艶な花を付けてくれた。そのほか同じ事例で、多年草の草花が氣付かずに庭には沢山ある。例えばカーラ、アガパンサスなどが目に付くし、アリストロメリアは今を盛りに綺麗な花を沢山つけている。隣近所にも分けて差し上げたりして、喜ばれていく。切り花にして、通りに屋台を出して道行く

国土の広い中国は、インフラが経済の発展に追いつかず、そこに襲った巨大地震である。道路の寸断や、橋の流失で救援活動は進んでいない。日を追って、二次災害や、疫病の発生も心配である。人命救助に、医療活動に、災害地の復興に向けて、国際社会が一致団結して一刻も早く応援すべきである。事態は深刻であり、いつときの猶予も待てない。日本でも人命救助のためと緊急隊員の派遣を決めている。医療チームの派遣も必要である。隣国、友好国の被害を最小限度にとどめ、その復旧に最善を尽くすべきである。

ところで昨日の夜は、「宏池会と語る」という大きな集会在赤坂のプリンスホテルであった。宏池会はもともと、所得倍増計画をぶち上げて内閣を作った池田勇人の派閥である。六、七年前に分裂して二つに分かれた。再びよりを展して復縁した。嫌いで別れた夫婦が、どっちか知らないが、そろばん勘定で復縁を迫り、どこで昨日の夜は、「宏池会と語る」という大きな集会在赤坂のプリンスホテルであった。宏池会はもともと、所得倍増計画をぶち上げて内閣を作った池田勇人の派閥である。六、七年前に分裂して二つに分かれた。再びよりを展して復縁した。嫌いで別れた夫婦が、どっちか知らないが、そろばん勘定で復縁を迫り、

べて、冒頭から他の派閥集団の会合を指して正直に、「資金集めの会として」と出席者を笑わせたが、しかし正直に客観的に云っていたが、このパーティー券はさる人の付き合いで四枚買って持っていた。まさか宏池会だから厚かましいこととはしないだろうと思いつ、友人を誘い顔を出してみた。ご馳走を当て込んでいたわけではないが、少々の腹ごしらえでもして後は赤坂でたまには一杯付き合つてと思いつ、しかし浅はかであった。これでは手はおろか、指も出せないと思いきや、中央演壇に山拓のさわりの部分を聞いて、這う這うの体で退散した。そして赤坂界限の安直は韓国料理店に入り、食べ物を腹に詰め込んで友達をもてなした。

むんむんした会場にいる人たちは、ウーロン茶と水割りを含んで皆は腹ペコで帰っていくのだろう。早く気がついて中座してよかつたと思つた。幹事長が云ってくれなかつたら、そのまま会場に残っていて、わずかばかりのバスタマを腹に詰め込んで友達をもてなした。

むんむんした会場にいる人たちは、ウーロン茶と水割りを含んで皆は腹ペコで帰っていくのだろう。早く気がついて中座してよかつたと思つた。幹事長が云ってくれなかつたら、そのまま会場に残っていて、わずかばかりのバスタマを腹に詰め込んで友達をもてなした。

を囲んで取っ組み合いの争奪戦に加わつたりして、女だちに恥をかかせるどころだつた。議員諸侯は日頃、国会や委員会、乱闘場面には慣れているだろうからいけど、われわれ稳健な品ある人間には、あの群集は全く別世界である。体力の消耗で、疲労感が貯まってきた気分が悪くなつてきて困る。特に盛装してきたご婦人方は気の毒である。

当たり前な話であるが、あれはやはり政治活動への献金、寄附である。相変わらずの派閥復活の茶番劇を見てきたが、強力な自民党政権を支持するための合体だと云つて見ても、どんなもんだらうか。国会は今、衆参ねじり現象で運営が難しい状況になつたとして、選挙の結果がさも悪いんだと頭から決め付けているのもおかしい話である。賢明な民意の反映で、政治の状況が大きく変わつてきていることに気がつかないのも、唐彦木の石頭で困つたものである。派閥の結集をして勢力拡大を目指そうなんて

ろどろした関係を持つたに過ぎない。だれも見向きもしないだろう。しかし、ホテルの大きな部屋が超満員で、立錐の余地もなく熱気むんむんの大盛況である。宏池会はもともと、所得倍増計画をぶち上げて内閣を作った池田勇人の派閥である。池田は戦後の日本経済を復興させた立役者で、骨太の勇氣ある政治家であつた。一面石橋湛山を髣髴させるものがあつた。宏池会は六、七年前に分裂して二つに分かれた。再びよりを展して復縁した。嫌いで別れた夫婦が、どっちか知らないが、そろばん勘定で復縁を迫り、どろどろした関係を持つたに過ぎない。だれも見向きもしないだろう。しかし、ホテルの大きな部屋が超満員で、立錐の余地もなく熱気むんむんの大盛況である。宏池会はもともと、所得倍増計画をぶち上げて内閣を作った池田勇人の派閥である。池田は戦後の日本経済を復興させた立役者で、骨太の勇氣ある政治家であつた。一面石橋湛山を髣髴させるものがあつた。宏池

舞台に控えまするは派閥の親分、古賀と谷垣の二名さまのどすの利いた、どえらい声の挨拶を聞いた。この世界、一種独特な雰囲気である。来賓に見えた自民党の伊吹幹事長が祝辞を述

時代錯誤もはなはだし。ねじり草は、踏みつ  
けられた芝生の地面から遅く新鮮な芽を出  
して、綺麗な花を見事に付ける。見ていても、  
一本立ちで、臆病者の群れをなしていない。空  
を渡っていく孤高の鶴もそうだ。群れをなす国  
会の、今のねじれ現象をほやく前に、自然に立  
ち返って、世の中の流れをもっと勉強すべきで  
ある。

下らんことで話がそれてしまったが、拙宅の  
土地は、他さまと比べて地味に恵まれているの  
だろうか。何を植えても、すぐに根付いて、株  
が増えてしまう。有難いことだが、これにも限  
度があって増えすぎて困るし、拡大を阻止す  
るのに知恵を絞っている。菊の花にしてもそう  
だし、成りものの藤や荳荷にしても、成育が著  
しく良好である。何を植えても元気に根付いて、  
芽を出し育っている。多くの人が云うには、庭  
に植え付けても枯れてしまったり、溶けてなく

に放尿する時の快感は、私独特の習性かも知れ  
ない。みみずりに掛けると卒が曲がると親父にそ  
の昔云われたので、注意している。庭の放尿は  
精神的快感の充足であり、気分が向くと、庭の  
隅のひばの太い根元にひっかけている。ひばの  
木に引掛けていると、木の精を吸い上げるよ  
うな気がする。ひばの木の葉は匂いが香ばしい  
上に、かなり強く消臭剤の効果を持っている。  
しかしわが小便は力及ばず、匂い負けだ。同時  
に小便に嫌な匂いがないのは健康な証拠であ  
ると、さる医者がの給っていた。

五月の連休に改めてニューヨークに行こうと、  
俄かに思い立ったが間に合わず、成田発の航空  
便は満席で取れなかった。昨年この連休を利  
用してライオンで行って、ニューヨークでは明子  
の案内を受けて大塚たのしい思いをしてきた  
ので、味を占めてまた行ってみようと思ひ腰を  
上げたが残念叶わなかった。それにしても「昨  
年にニューヨークの旅」と題して一気に書いた

なってしまうたりするのだけれど、拙宅の場合  
は、植えたりすると旺盛に繁殖して、これが当  
り前だと思っているが、一般にはどうも、そう  
でないらしい。植物が地味に合う場合と、そう  
でない時があるようだ。樹木の梅や、柿や、柚  
子にしても同じで、拙宅では庭畑の植え付けも  
全て満足して、折々のなりものの収穫を得て楽  
しんでいる。

自然、天然の有機肥料を使っているからと云  
うことかも知れないが、土を掘りおこすと沢山  
のみみずがでてきたりするから、生き物には快  
適な条件なのかも知れない。蛭こそ飛ばないが、  
色々な虫も沢山生息し、夏のせみ時雨はやがま  
しいくらいだし、秋の虫の声は沢山に入り混じ  
って、聞くにもたのしいものがある。以前はヒ  
キガエルが沢山まかり出たが、どうしたことか  
ひょうきんな姿を見かけなくなった。しかし、  
三匹は居ることは確かである。ある時「放尿は  
庭の隅でしてください」と妻に云われた。大地

綴り方が、当意即妙の度が過ぎて、文中に雑音  
が多く、未だに滞在第一日目をうるうるした記  
事の掲載になっており、申し訳ない次第である。  
既に原稿は書き終わっており、掲載記事として  
は三百ページを越しているので、発表としては  
まだまだ先があることになる。面白いといっ  
て読むにも疲れてしまふと感言するものもある  
ので、今回は気分転換に他の話題をちよつぱり  
書いてみた次第である。書きすぎといえは、俳  
句、短歌もたしなんで、これが又充実しきつて  
いる。

俳句は昭経俳壇で専らであるが、畏敬する遠  
藤先生のご指導を得、会員諸氏との上なく樂  
しんでいる。短歌は同人誌の「淵」があるが、  
最近、これを引き継がなければならぬような  
羽目になってきている。日増しではなく、年増  
しに従い、都都逸、端唄、新内などといった軽

妙酒脱な領域も手がけてみたいと思つて居る。この領域は、当会の常務理事で粹人の野沢大先輩が牙城を張つて居るので、うかつには手を出せない。よくな気がして怯んでいる。

去の仕込みも素質の上に努力研鑽があつてのことであり、時間と金もかかるので、凡人の及ぶところではない。従つて今のところはまだまだそんな優雅な気持ちを持つ余裕はない。遊び半分の庭の手入れも雑木であり、雑草をむしり、僅かな畑を耕して馬糞、鶏糞を撒いて匂いに爽やかな郷愁を覚え、専ら乙な陶淵明や、酒で李白の心境を味わつて居る程度である。ここで付け足すことは妙なことで、連休は、兄の不幸があつたりして、喪主を務める用事も生じたりして、致し方ないそれなりの時の運があつたのである。ニューヨーク行きも叶わず、そこで忙中の閑、連休は庭畑に咲きつばなしだつた菜の花を抜いて、土を起こして整地し、三井さん夫妻の

.....

去る五月二十四日(土)、玉川神の教会で、婦人が組織する関東地区神の教会連盟女性会主催の「玉川讚美コンサート」が開かれた。会には教会関係者はじめ玉川教会員と知人、友人が集まり、福音の業が豊かにあたえられて大きな感動を覚えた。当日の参加者は、七十五名であつた。玉川讚美コンサートは、十一時から関係地区の教会員の集会のあと一時から外部に向けて一般に公開された。伝道を目的として開かれたもので、内容の豊かなイベントであつた。私は一時から始まつた讚美コンサートに向向いていった。広川恵さんの独唱の魅力に惹かれて行つた。始めに礼拝が行われ、玉川聖學院々院長である、牧師のバートン・バートン先生が約二十五分、み言葉の取りつきをして下さつた。バートン師夫妻は、根っからの親日家である。宣教師として来日して三十二年が経つが、初め

手助けを得、例年に従い、トマトと胡瓜の苗をそれぞれ二十本づつ植え付けた。接ぎ木の苗なので上等だから、今年も豊作は間違いない。

五月十四日

九州、そして神戸の垂水の教会で牧師を勤めたあと、約十年前に玉川聖學院の院長に赴任してこられた。謙虚で明るく、親しみやすい人柄は、牧師として教育者としてふさわしい感じである。その目的を果すために、宣教と教育に活動してこられたが、何故か教会での伝道は閉ざされ、玉川神の教会で教説を行つたのは今回が初めてである。女性会が、勇気を以つて企画したものである。講壇に立つたバートン師の流暢な日本語と、表現力には驚かされた。初めに聖書の詩篇二十七編一〜五章を拝読してみ言葉の取次ぎを頂いたが、お話は意義深く、信仰の真髄に迫るものであつた。

バートン先生のメッセージは明るく、力強く、堂々としており、今の世の人に欠ける信仰心を揺さぶり人の心を鼓舞してやまないものであつた。そしてこの世を逞しく生きてゆく道筋を与えるものであつた。苦難を解消し、一人ひとり恐怖から解放して、希望と光を与え、自由

と確信に満ちて、人生を明るく、強く生きていく術を教授するものであった。いづれそのメッセージの内容を掲載し、各位にお伝えしたいと思っている。

礼拝に続き、讚美コンサートが行なわれた。

教会員である中山修一兄によるバイオリン演奏があった。曲目は「明日を守るイエスさま」「麗しの白百合」「千の風になつて」の三曲を一人きりと聞くことができた。普段、寡黙な修一君であるが、バイオリンを持つと豊かな調べを奏で、心を癒し、感動を与えてくれるのである。内面的に秀でた力を秘めている。

コンサートのメインゲストには、広川恵さんをお招きしていた。オペラやオラトリオ、ミサなど宗教曲のソリストとして活躍し、また合唱団の指揮者、ボイストレーナーとしても活躍している二期会々員である。当日は、広川恵さんの独唱を心行くばかりに聞くことが出来た。

妻の案内を受けて会堂の真中に立った広川さんは、この日、薄紫のドレスを着てシクで優雅な立ち舞いであった。ソリストとして艶やかで、迫力ある音量と、秀でた歌唱力は改めて申し上げるまでもない。「力強く、あたたかく、広川さんの人柄を余すところなく表現したものです。気取らず自然体であり、ハートの美しい方です」と、感極まった胸のうちを伝えてきた川越厚子さんのフックスで、広川さんの全ては云い尽きている。同じような知らせが沢山の方々から届いて、妻はその応対に翻弄されていた。「玉川讚美コンサート」は、神さまの大きな恵みと祝福を得て、全ての人に感動を与えて大成功であった。これこそが正に、神さまから与えられた福音の鮮やかな証である。オペラの好きな小泉さんにも知らせてやればよかったですと思った。サントリーホールのような天蓋の高い大ホールでは味わえない、一種独特なものがあつた。それは、この礼拝堂の中に誠に、

主がご臨在し、祝福と恵みで満たされていたのであつた。

広川さんの独唱による「讚美と証」は、奥深い調べで豊かな力量感と、頼みまれなる抑揚感に溢れて、全てにおいて圧巻であり感動的であった。心配りのやさしい広川さんは、初めに日本の懐かしい四季の調べをシリーズで歌って

下さつた。「菜の花、ふるさと、紅葉、浜千鳥

兔追いし、鯉のぼり・・・」といった思い出の童謡、歌謡の数々である。ご自分のナレーションを随所に挟みながら、思い出をたぐり、潤いを帯びた演出で、皆の心しつとりと和ませてくれた。次から次へと歌う唱歌の数々であつたが、一曲々々の情景を思い浮かべていると、喜びと、憧憬と、哀愁に満ちて心魅かれ、さながら幼い頃のふるさと町、遠い山川、澄み切つた空の果てに心はいざなわれ、知らずうちに甘い郷愁の念に浸ることができた。

広川さんが受洗に導かれたという賛美歌三

三番、「主は命を与えませり」を熱唱し、続いて「キリストには変えられません」など沢山の賛美歌を歌ってくださったあと、讚美の歌のクライマックスは、「アメイジング・グレイス」を以つて心の息を全て吐きつくして、讚美にたぎる心は、そのまま神に証す思いに満ち溢れていた。

思うに、広川さんの讚美の独唱は、心のそこ

に築かれた熱い信仰の岩に立つ、揺るぎない姿からほとぼしる叫びでもあつた。それは全ての曲に、縦横無尽に奔流するものであつた。その全てに、広川さんの神への敬虔な思いと、祈りの姿を知つた。そして、ひたむきで大らかな信仰の道から得た、豊かな愛の結晶を身にまとい、研鑽の末に切り拓いた、独自の芸術的境地にある広川さんを、私は見つめていた。全てがこの独唱と、思いに凝縮されていく。目を閉じていると、色々なことが想像され、自分の脳裏に描き出された。それは讚美歌の言葉と調べが、

この世で燦然と輝やき照らす光であり、人々に希望と夢、喜びと力、愛と慈しみを与えて止まないものであり、いかなる風雪にも耐えうる不動のもののように感じせしめるに充分であった。即ち、賛美歌を通して、在るがままに命の尊さを讚美し、平安と永遠のものを追い求めてやまない姿勢を、我々に植え付けてくれたのである。

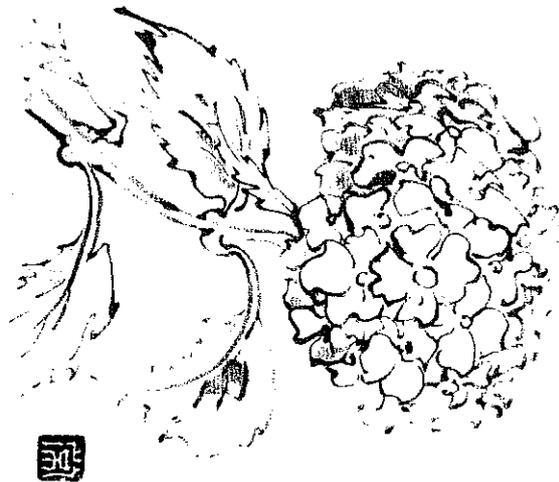
広川さんの美しい調べで、私は心の底まで清められる思いであった。礼拝堂には、大きな拍手が鳴り止まなかった。その時、ピアノ伴奏の清水綾子さんと目をかわした。アンコールに応えて広川さんは一曲を歌ってくださったが、息を合わせて、一糸乱れぬ呼吸とリズムに、広川さんはあたかも全身を楽器に変えるかのごとくに調べを奏でた。特筆すべきは「GOOD BYE」の絶唱であった。この曲はイタリヤの歌曲であるが、広川さんは、あなたを神に置き換えて歌

るように覚えたのである。

広川さんには、昭和経済会創立六十五周年記念行事（東京八重洲富士屋ホテル）の時にもお出でを頂き、独唱の宴を堪能した思い出が力強く脳裏にあるが、今日再び魂の琴様に触れ、その魅力の世界に浸ることができ幸せであった。私は音楽を聴くのが大好きで、今までにも忙中の間、よくオペラの観劇や、妻のコンサートを聴きに出かけたが、全ては遠くからであり、身近に聞くような機会はなかった。今回のように目の前で生のコンサートに接することが、人なにも身に迫り深い感動を覚えるものとは知らなかった。このような至福の時を与えてくださったことは、神の恩寵の何ものでもない。ありがたく思い、心から感謝する次第である。

われた。心と身体、精神と肉体を振り絞って、全てを燃焼し尽くしたものであった。私は震え立つような気持ちで聞いていた。

岩場を流れる清冽な水に、心は自ずと清められた。その肉体から奔流する音量は大きく広がり、精神の高揚に光を帯びて会堂にくまなく響いた。目蓋を閉じていると小さな会堂は、大きな幕屋となって、豊かな聖霊に覆われていくようであった。その調べは、深く清澄な淵の底から、清流となって湧き出て川となり、大地を潤し、空をささなむ光となって、天地はまるで歓喜に躍る調べにみだされた。そして教会の会堂全体が十字架を真なかに聖霊につつまれ、会堂全体が勝利のラッパとなって鳴りわたりあたりを圧倒していった。澄み渡る声は、やがて大海の波のようにうねり、岸辺に寄せた白波は細やかに刻まれて胸にせまり、調べは肉体を離れ、精神を越えて天空高く飛翔して馳せのぼり、かくして限りなく神の祝福を、わが身に浴びてい



作品 関根常雄

人間はちつとも進歩していないと、さる友人が酒の席でぼやいていたが、縄文の世に生きた古代人も、科学の超進歩した現代に生きる人間も、本質的には何ら変わっていないと云う結論である。否、ある面においては、現代人のほうが前頭葉が後退して野蠻的であり、ホモサピエンスのレベルとしては極まつて劣勢に立たされていく。逆に後頭部の一部が異常に発達し性格的に陰湿狡知的で、悪辣獷猛である。ダーヴィンが聞いたらビツクリするかもしれないが、人間においてはダーヴィンの進化論が適応しないで、進化が止まつてむしろ逆に後退局面に入り、退化しつつあるかもしれない。生きものとして、性格と素質に於いて柔和さに欠け、純真、素朴に欠け、加えて神の恐れを知らない傲慢さは手に負えるものではない。タンザニアの奥地の密林に住むゴリラの表情に、落ち着いた

荘嚴さに似たものを感じたが、比較して今の人間の顔に陰湿な悪知恵と、ある種の獷猛さを感じて嫌悪感を抱いた人は少なくあるまい。その様相にゴリラもたじろぐだろう。彼らのほうが靈的な感受性を持つている気がするからである。人間は禁断の実に手を付けてしまつて以来、時間の経過とともに、麥に邪まに、こなれてきてしまつた感じである。

これは欲望むき出しの金錢において然りである。人間と比較するに、神秘的なゴリラを引き合いに出すのも躊躇するくらいである。況んや、超科学の進歩の中に生きるこの時代の人間においてさえ、神が与えた信仰の道に於いても痛感するところである。幼稚にすぎるが、宗教の対立で過激になると殺し合いになり、直ぐに戦争に発展し、話し合いと互譲の余地がない。宗教と信仰の世界でも、公然と迫撃砲などの重火砲の兵器を使用し、相手方を攻撃殲滅を謀るため「ジハード」即ち聖戦と称して正義と

正当性を天下に掲げ、先兵として無知蒙昧の民衆を駆り立て殺戮の戦場へと送り込むようになる。これは神の意志を摩り替えて、陰謀をたぐらむ首謀者の都合よく口にする言葉で、手代を使って無知蒙昧な弱小の先兵を洗脳し自爆攻撃に仕立てる。先兵はその時、心神喪失症に等しい状態に洗脳訓練されて、首謀者の意のままに従つて行動する。

まう、ロボットみたいなものである。左様に、ジハードを仕掛け犠牲の先頭に立つのは、熱氣盛んで純粋な少年や若者たちである。貧しいその日暮らしの民衆である。貧乏に苦しみ虐げられた無知蒙昧な民衆である。これらを集めて教育訓練し、尖兵として駆り立てる。宗教の基のつは、この世から、この世界から先ず貧困をなくすことが急務なはずである。なのに、宗教的聖戦の名の下に、彼らはその貧乏人、極貧の生活を強いられている人たちを金で雇い、自爆テロの先頭に仕立てて自分の目的を達し、影で甘い汁を吸い上げている野蠻的陰謀者である。自分は決して表には出てこない、卑劣な先導者たちである。

かくしてジハードは、相手の隙を見ながら、日常生活を装つて善良穩健な民衆の中に巧みに潜入し、罪なき群集を巻き込んで己もろどもに無差別に攻撃、殺傷し、壊滅させる手段に用いる便利なものである。日常生活に欠かせない公共施設を狙つて、手薄のところを不意打ちをかけて攻撃してくるので予防の仕様がなない。その手段となる先兵は時に妄想的、盲目的になり、己の命を犠牲にて前後不覚、迎りかまわずの行動を採るので、終始つかない状況になつてしまふ。全く都合よくボスのリモコンにはまつてし

かように見るとテロの行動も、元をたせば貧乏に原因がある。犠牲に立つのはいつも貧しい、弱い民衆である。国の貧しさ、生活の苦しさが、テロに志願するきっかけともなる。アメリカの兵士はそれなりの訓練を経て戦場に出

陣するが、彼らは自分なりの意志を以て軍人としての自覚を持って戦場に臨んでいるはずである。なれど、戦場は軍規に従い絶対服従であり、過酷である。服従者は充分に耐える体力が要求され、従つていづれも若者であり、指合者は体力なき老獪な知謀者であり権力者あることを要し、もとより世の指導者であり、権力を楯に、大衆より有利な地位にあることには代わりがない。

国家間の対立・抗争・戦争とは、いづれにしても誰かが仕組んだものであり、人間の最も冷酷、非情な局面をさらして、しかも止むじがなない。結果、誰が巨万の富を手にするか知らないが、しかし死んでいくときは神様は人間を平等に扱つておられるから、この世は不思議である。チェイニーとブッシュが仕組んだ石油の利権で、イラク戦争が始まつたことは、たとえ戦争は時の流れかもしれないが、イラク戦争の本質を以て確かである。原油の高騰も、淵源を辿

ばいである。人知では御しがたいことではいである。この世の表にも影にも、神が存在している証拠である。平生でも黄泉に発つしかばねを見れば歴然である。むしろ巨万の富を手にした人間ほど、死相はこの世に未練を断ち切れず、蛆虫の群がるものとなつて、成仏できない有様だろ。南無阿彌陀仏の念仏然り、三途の川も渡れない。聖書が語る、天国の狭き門である。針の穴を通るようなもので難渋の技であり、不可能という。聖書の伝道の書には、日の下のものは皆空なりと繰り返し述べていることは意味が深い。

イエスは人間の罪を背負つて贖い自ら十字架にかかつて三日目に甦つたが、だからいつてこの世での人間の悪事を全て容認し野放図に許しているわけではない。悪を試みた者に対しては、天罰を加えることは至極当然である。艱難辛苦に耐えて、人を助け、愛を以て人に臨み、正義の神に己を立ち向けて生きていく確

ればイラク戦争の謀略にある。しかし言いたいことは、たとえ権勢を誇つても、その一時だけのこと、たゞ悦楽と満足であり、それが何時まで続くか保証の限りではない。おごれるもの久しからず、栄枯盛衰は世の常である。いつ形勢が逆転して罪に問われて逆に追われる身とならないとも限らない。追われる身となれば日々安閑としていられないだろう。常に強迫観念にさいなまされていく。その心境にあるものこそ、人に明かすぬ悲劇というべきである。被害妄想に立ち至つて「貧者に安んじるものは富めるものなり」との言葉を囁みしめる結果となる。ギリシヤには「精神の富が、真の富である」とも、イギリスには「錦を着て地獄に行くよりも、ぼろを着て天国へ行くほうがいい」という教訓もある。一方、世の中には、衣食足つて礼節を知る、とあるが、事は程ほどに中庸の域を忘れてはならないということではないだろうか。その一事を以つてしても、人知では計り知れないことでは

ある。

残酷な話だが、日本の神風特攻隊もそうであった。帰還の燃料を積まずに飛び立ち、巨大な敵艦に体当たりして木っ端微塵となつていった字徒や青年たちを思うと、胸が引き裂かれる気持ちである。○七年七月十日 記

一億総玉砕がまことしやかに喧伝されて、国民もみんなその気であったから、驚きである。町内の街角に防火用水を用意し、竹やりを持つて敵兵を刺す訓練に明け暮れ、一万メートル上空を飛来するB29に向けて米英鬼畜、神国日本と怒鳴っていて疑わなかったのだから、これも又不思議である。老若男女、飲まず食わずの一億国民が心一つにして、空に向けて馬鹿口をあいていた中に、結局、焼夷弾を散々に打ち落とされた。国家権力を持った老獪な連中は、若者たちを半ば強制的に駆り出し、或いはそうした環境を作り出し、貧しい若者を洗脳し、陰で操って犠牲の先頭に立て、己の欲望を満たさんと奔走し、自らは陰に回り私腹を肥やし、快楽をむさぼっている。国家権力を振りかざし、若者を戦場へと送り込んだ戦争指導者、即ち政治家、軍人、役人どもは、もろとも地獄の果てももしれない。

戦時中、父の店に修行に、はたまた番頭として働いていた若者たちは赤紙一枚で呼び出され馬、牛の如く全て戦場へと持っていかれた。出征軍人として竹やり、火消しの訓練を受け、拳句に魔女狩りみたいに持っていかれたものである。国民全体がそうであったが、精神一統何事かなさきらん、こんな有様では、近代兵器で物量作戦に出るアメリカに、木っ端微塵である。弾除けにもならないだろう。結局、十六人いた若者は、戦争が終わったあと僅か二人しか帰ってこなかった。栃木から出てきていた番頭の飯島光男と彰男だけだった。父は、預かった若者の命を守りきれなかつたことをいつも悔やんでいた。地元や町内の偉い旦那衆が日の丸の旗を振って、出征軍人の背中を押しつけて送り出して、単純に羨ましく、高揚感に酔っていて将来を見据えるものがいなかった。若者を進んで国家のために提供すべきだと奨励する思想と、風潮の蔓延した世の中だったのである。

〇七年七月十日 記

## 表紙絵のことば

信州大町

関根常雄

この度の表紙絵は、信州大町に残されている田舎の素朴な風景を描いてみました。私は現在「日本民生文化協会」にある「慈彩会」の会員として、ボランティア活動に参加して居ります。慈彩会は、自然を愛し、美を愛する人びとの集まりです。会員の大家は、日頃から絵画、書道、工芸などに親しんでおりますが、製作品を自分のものとして楽しんでるだけでなく、社会福祉のために少しでも役立てたいと考えて活動しております。私も、この会に賛同させて頂いて居ります。

店に於いて「慈彩会展」を開催して居ります。この展覧会には、常陸宮妃殿下も会員と同じような気持ちで、賛助出品を下さって居ります。また、会の趣旨に賛同して、多くの専門家も参加しています。その作品は、社会福祉施設に贈呈されます。社会に対して、少しでも潤いの一助となればと思います。ご希望の方には作品を有料でお頒ちしますが、頂戴した浄財は福祉活動への助成金として役立てられます。

今年で五十回展を迎えますが、私は今年で二十一回目の出品となります。このような事から「慈彩会スケッチ旅行」に参加するようになりました。初めての旅行が、九十年十一月、頃は秋の信州大町、青木湖でした。信州大町は四方を三千メートル級の高い山々に囲まれていますが、それぞれの名を上げると穂高岳、槍ヶ岳、燕岳、爺ヶ岳、鹿島槍ヶ岳、白馬岳と目のあたりに浮んできます。正に日本の屋根といわれるにふさわしく、あくまでも壮麗な連峰の姿に庄

